

【ステップ1 平面図】

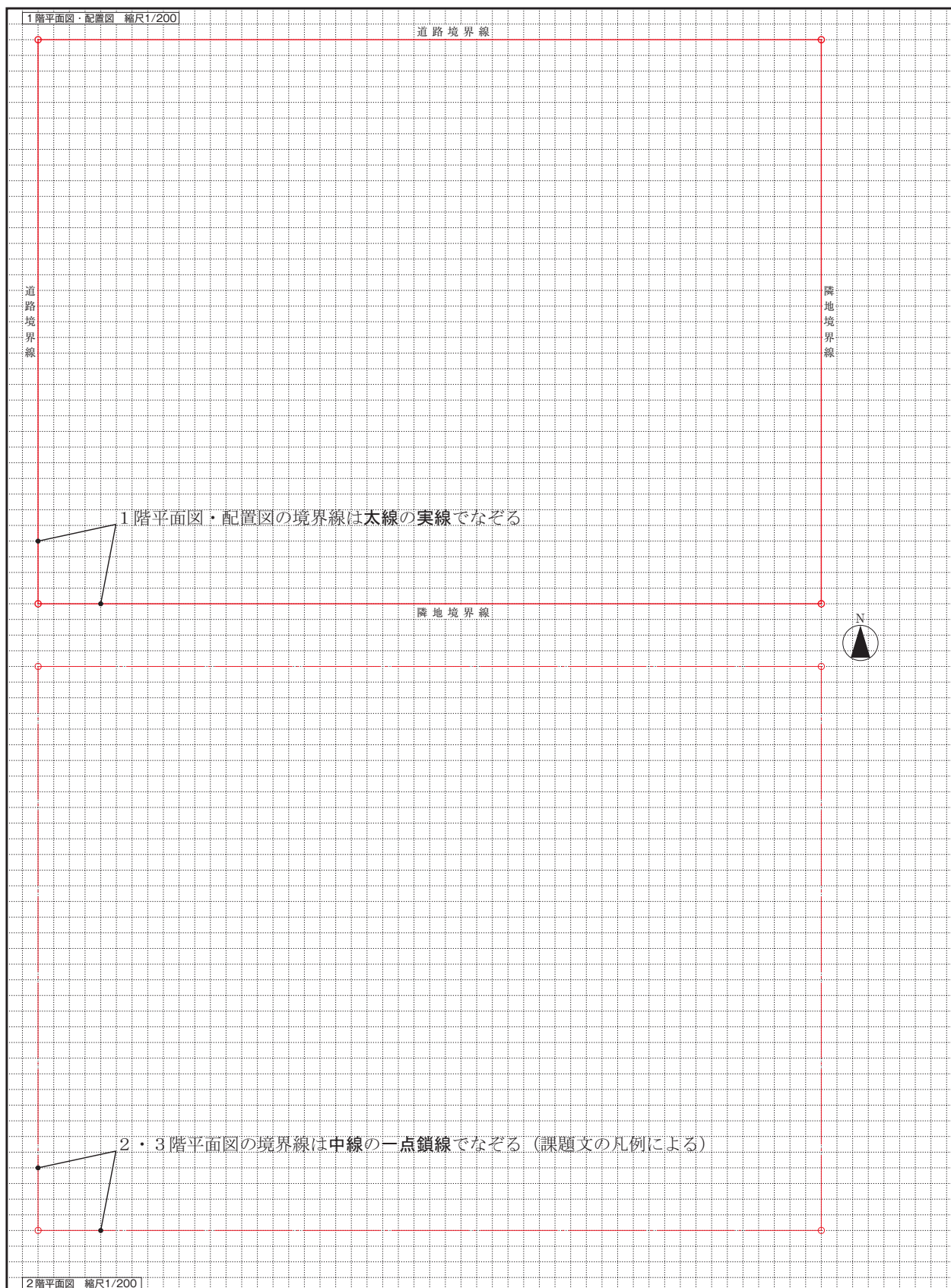
目標タイム	4分
ここまで	4分

①敷地図をなぞる（太線、中線）

→答案用紙に印刷してある境界線をなぞる（表現上、図面全体が引き締まる）。

②面積表の記入（中線）

→原則、算出結果は小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。



ここがポイント！

- ・平面図・断面図・面積表合わせて**3時間以内**の作図を目標とする。
- ・このタイミングで先に「延焼ライン」を全ての図面に図示してもよい（図示漏れの防止）。
- ・面積算定は、原則、壁心で計算する。
- ・面積の算定式は、全て（ヨコ寸法）×（タテ寸法）の算定に揃えて記入する。

3階平面図 縮尺1/200



補 足 ・各階の床面積の計算

- 「算入するもの」、「算入しないもの」は課題文に忠実に従う。
- 集合住宅、老人ホームなどは、共用の廊下、階段、E Vについての算入、不算入の指示に注意する。
- P S、D S、E P S、階段は、各階の床面積の計算からは差し引かない。
- ・建築面積の計算
 - バルコニーや庇の出、屋外階段などの算入漏れに注意する（P.105参照）。

南-北 断面図 縮尺1/200

面積表（算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。）			
床面積	建築面積	(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側庇)	建築面積 1,183.0 m ²
	3 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け)	床面積の合計
	2 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)	
	1 階	(算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (東側入口) (南側入口) (北側入口)	
			2,974.0 m ²

【ステップ2 平面図】

目標タイム	6分
ここまで	10分

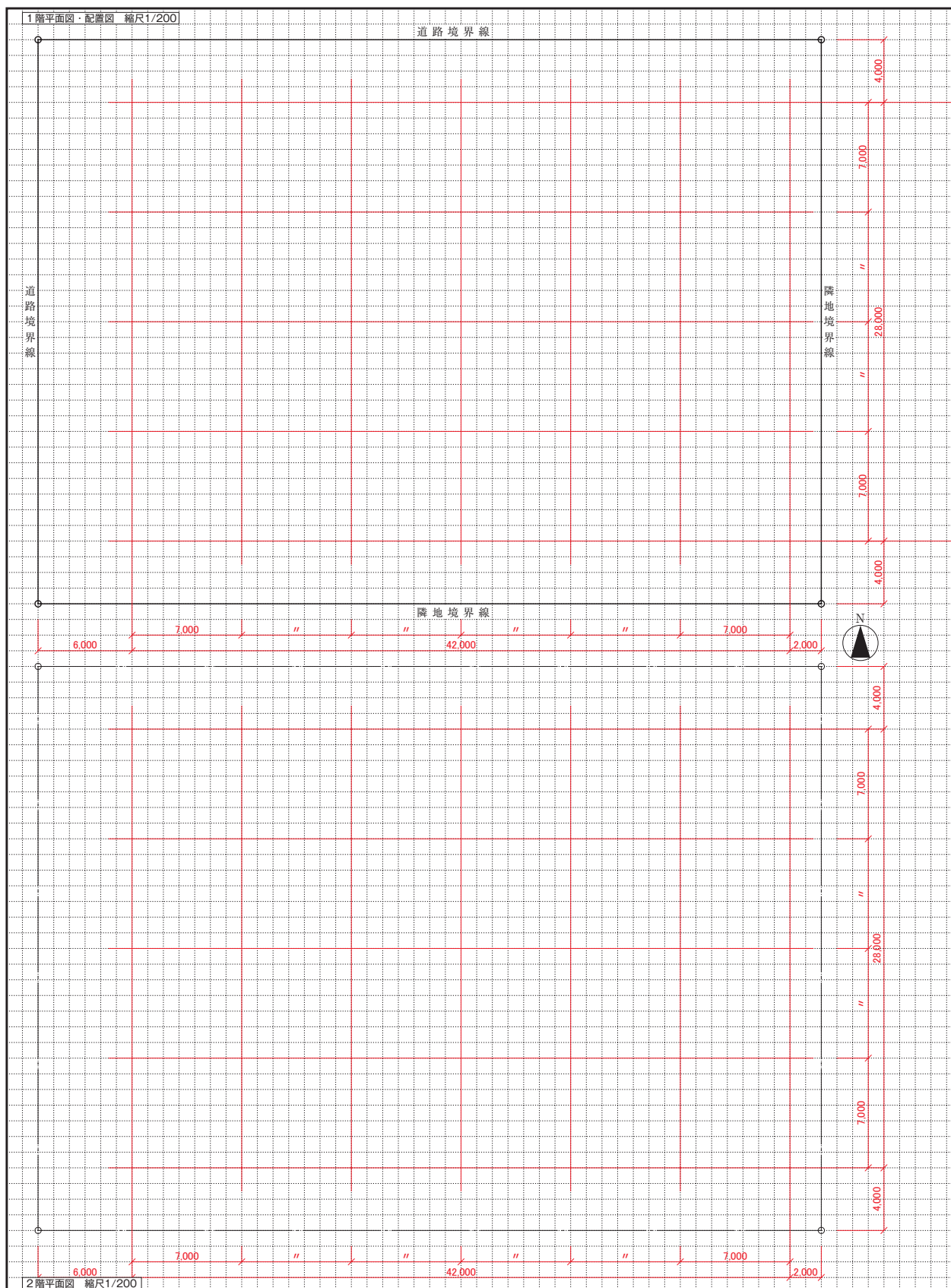
①通り心の図示（仮線）

→横線、縦線をそれぞれまとめて引く。

②寸法線の記入（中線）

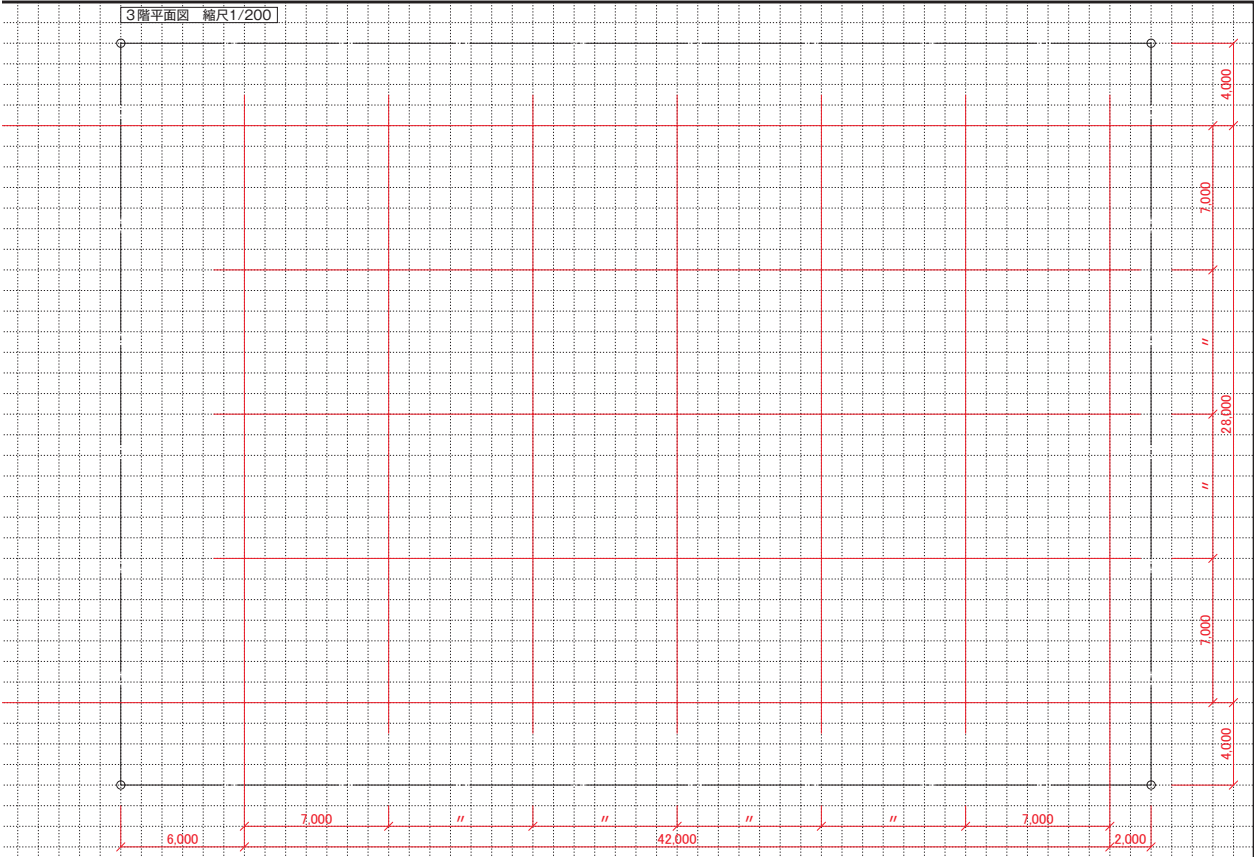
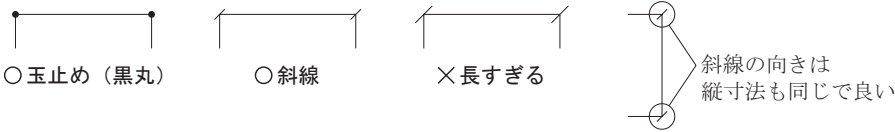
→各平面図の2方向に記入する。

→建築物の境界線からのアキ寸法・外形の寸法を最外側に記入し、内側にグリッド寸法を記入する。

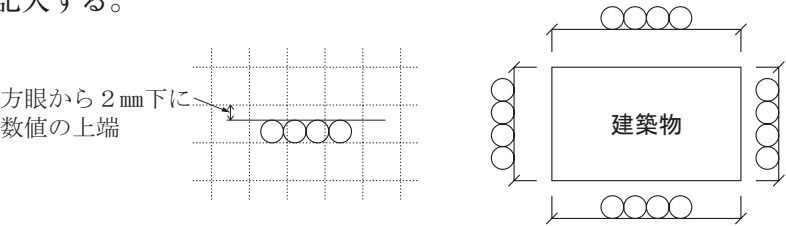


ここがポイント！

・寸法線の端には、玉止め（黒丸）または斜線を入れる。



補 足 ・寸法の数値は高さ約3mmに揃え、横寸法は寸法線の上、縦寸法は寸法線の左に記入する。



・断面図

→このタイミングで断面図の通り心を併せて引いてもよい。

南-北 断面図 縮尺1/200

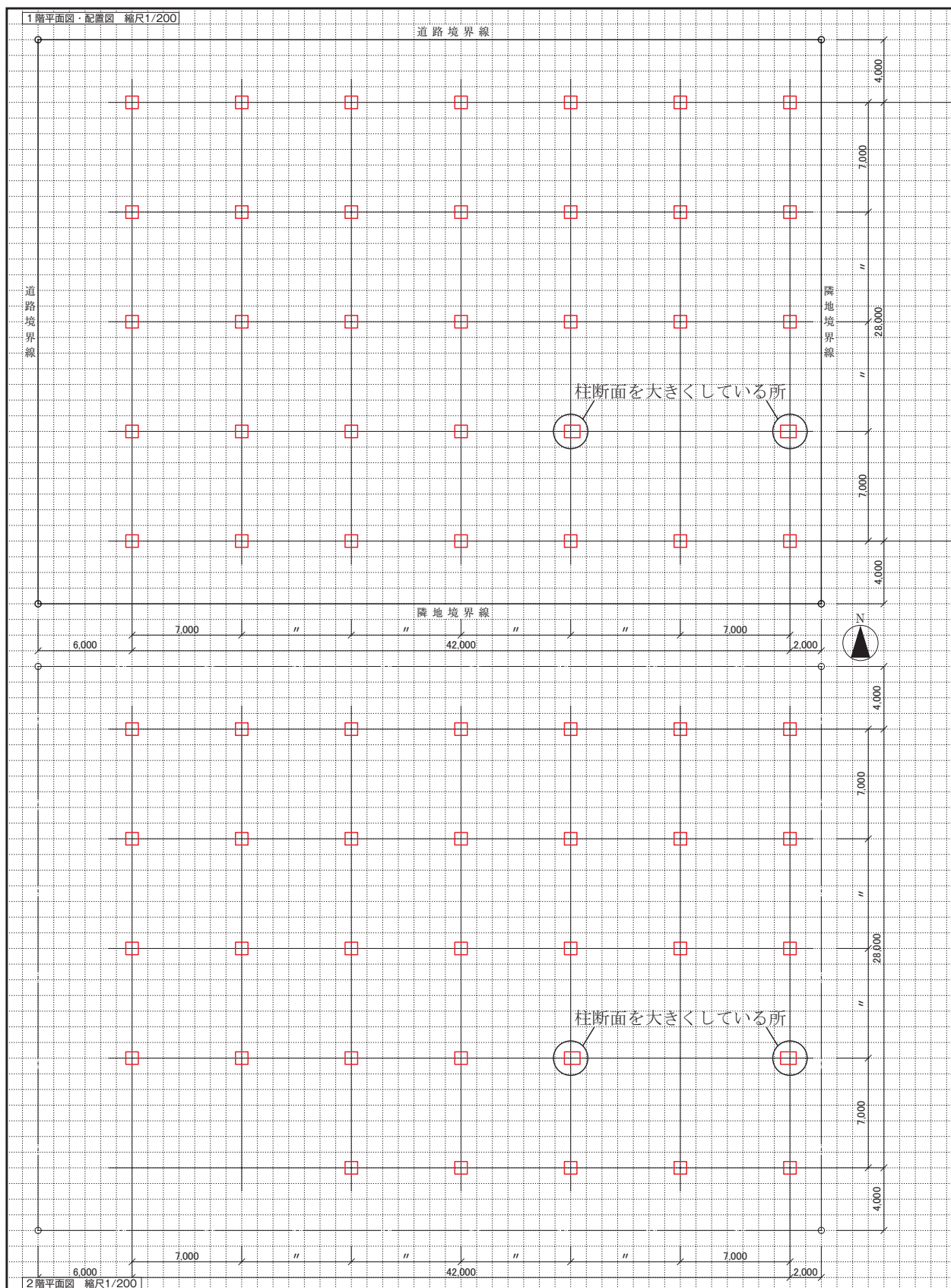
面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		
建築面積	(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側庇)	建築面積 1,183.0 m ²
床面積	3 階 (算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け) (吹抜け)	床面積の合計
	2 階 (算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)	
	1 階 (算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (東側入口) (南側入口) (北側入口)	
		2,974.0 m ²

【ステップ3 平面図】

●柱の図示（太線）

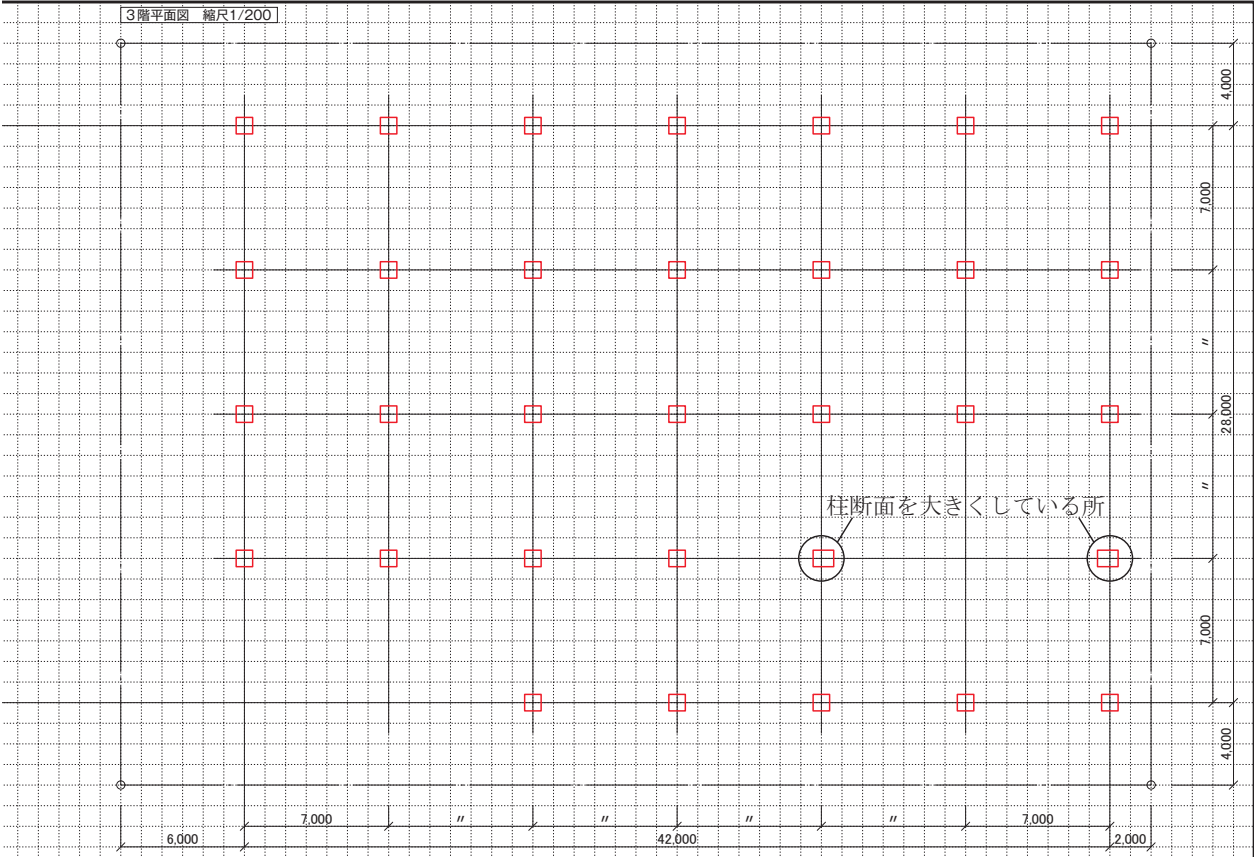
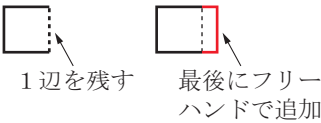
- テンプレート（4mm角）を使う。テンプレートの下端を平行定規に当て、左から右へ水平方向に一気にまとめて図示する。
- 3つの平面図の柱を全て図示する。

目標タイム	5分
ここまで	15分



ここがポイント！

- ・機械的かつスピーディに図示できるように、徹底してトレーニングをする。
- ・作図ミスをした場合でも、気にせず全て描き終えた後、最後にまとめて消して修正する。
- ・柱断面を大きくする場合（P C梁を受ける場合）、テンプレートで1辺だけ残し、最後にフリーハンドで追加すればよい。



補足 ・ここまでは、3つの平面図をまとめて作図する。
ステップ3までを約15分で終わることを目標にトレーニングを繰り返そう！
次のステップからは、1面ずつ作図を進めていくとよい。

南-北 断面図 縮尺1/200

面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		
床面積	建築面積	(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側底)
	3 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け)
	2 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)
	1 階	(算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (東側入口) (南側入口) (北側入口)

建築面積	1,183.0 m ²
床面積の合計	2,974.0 m ²

【ステップ4 平面図】

目標タイム	3分
ここまで	18分

①外壁の下書き（仮線と中線の中間）

→先に外壁について、下書きをする。

（このタイミングで内壁を併せて下書きしてもよい）

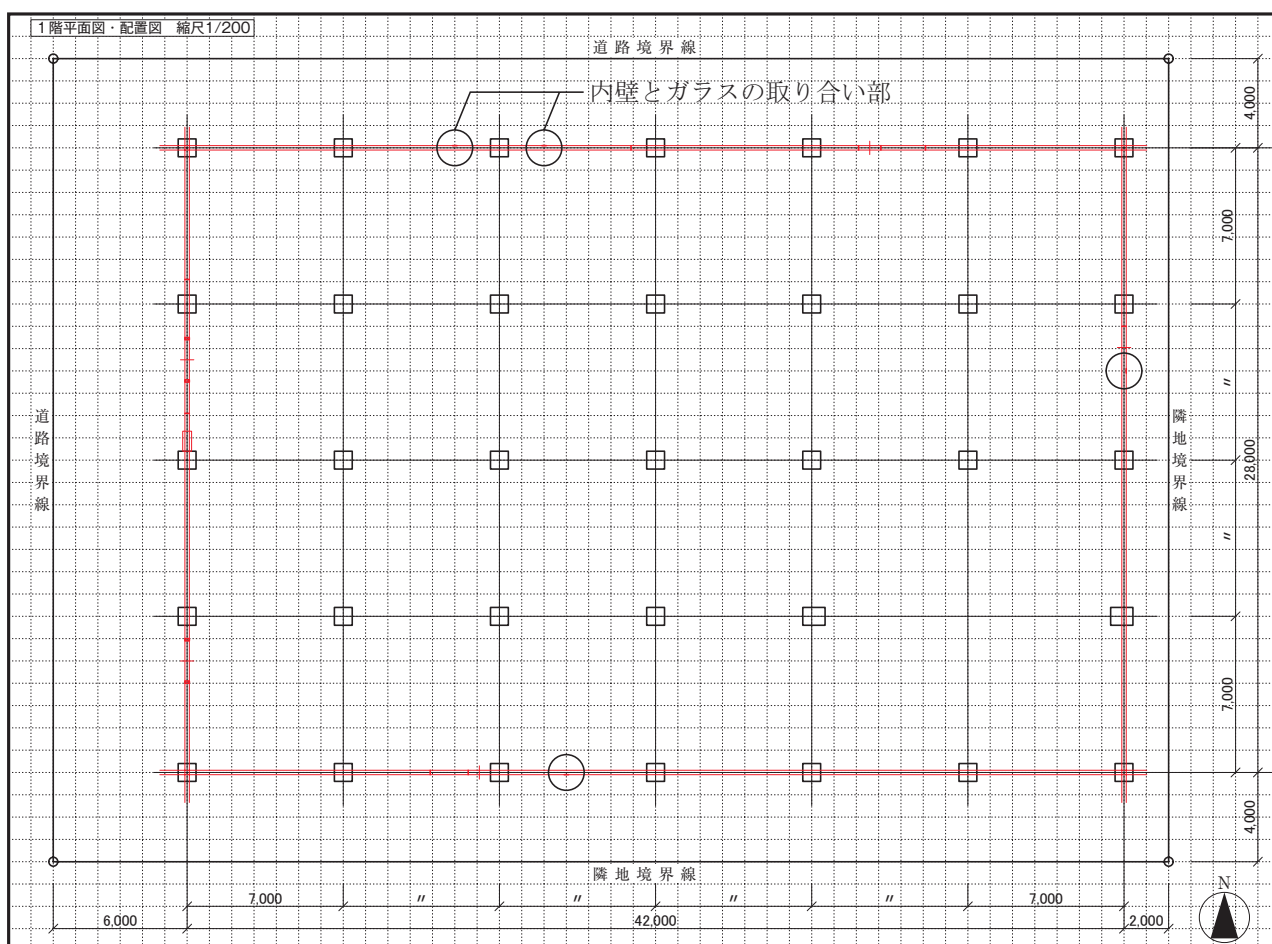
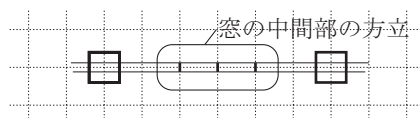
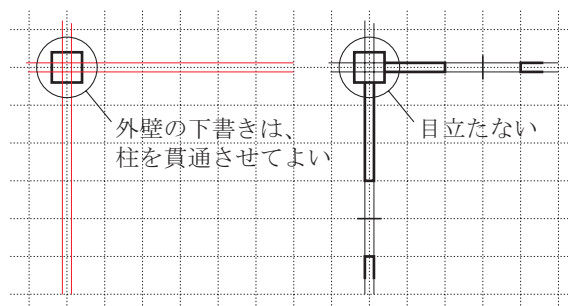
②外壁の開口部の位置を図示（中線、太線）

→開口部のセンターライン（中線）と両脇（壁の止め位置）（太線）などを図示する。

（基本、フリーハンドでよい）

ここがポイント！

- ・外壁の下書きにおいて、通常の壁厚1.2mmより少し厚めに、1.5～1.8mm程度を目安とすると、ガラス、両窓枠の3本の線が重なりにくい。
- ・外壁の下書きは、柱のところでいちいち止めず、貫通させてよい（太線でなぞった後は目立たない）。
- ・壁の止め位置と区別がつかなくなるので、窓の中間部の方立はまだ描かない。

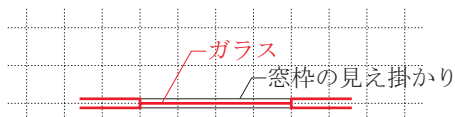


【ステップ5】 平面図】

目標タイム	4分
ここまで	22分

①外壁の仕上げ（太線）

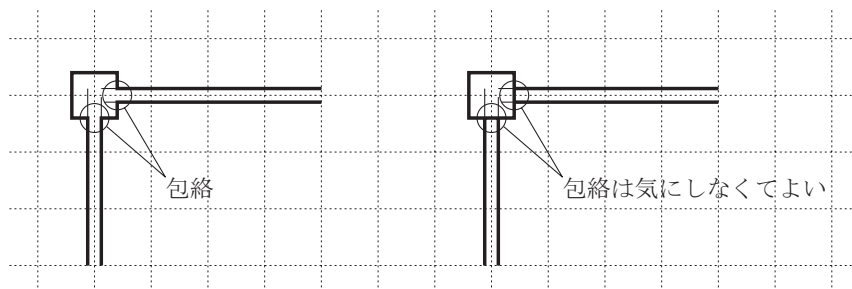
→外壁、ガラスなどを太線でなぞる（なぞらずに残した線は窓枠の見え掛かりになる）。



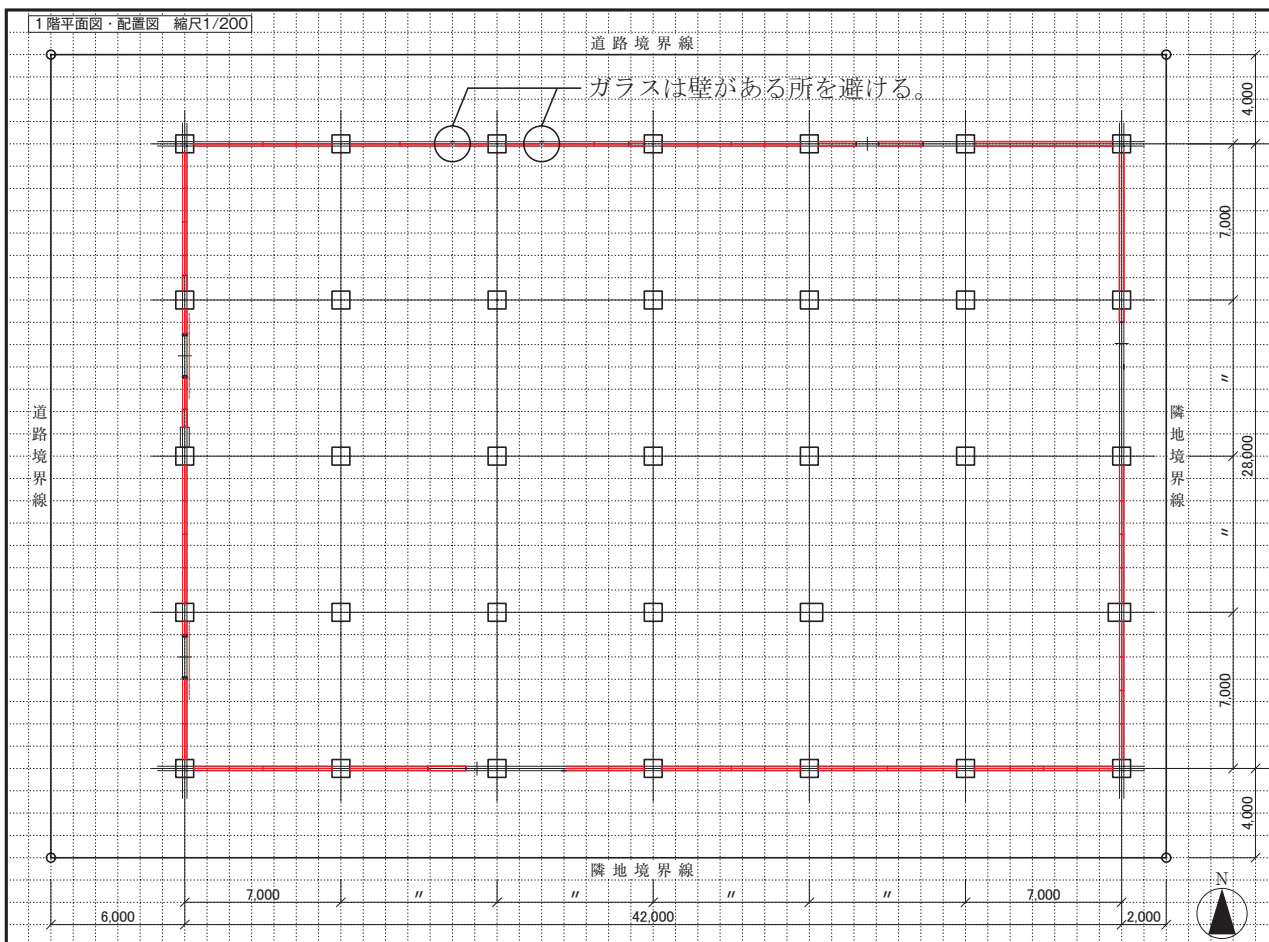
②方立・扉などの図示

ここがポイント！

・これで1階平面図の外壁が完成（包絡は気にしなくてよい）。



・方立や扉はフリーハンドでもよい。



【ステップ6 平面図】

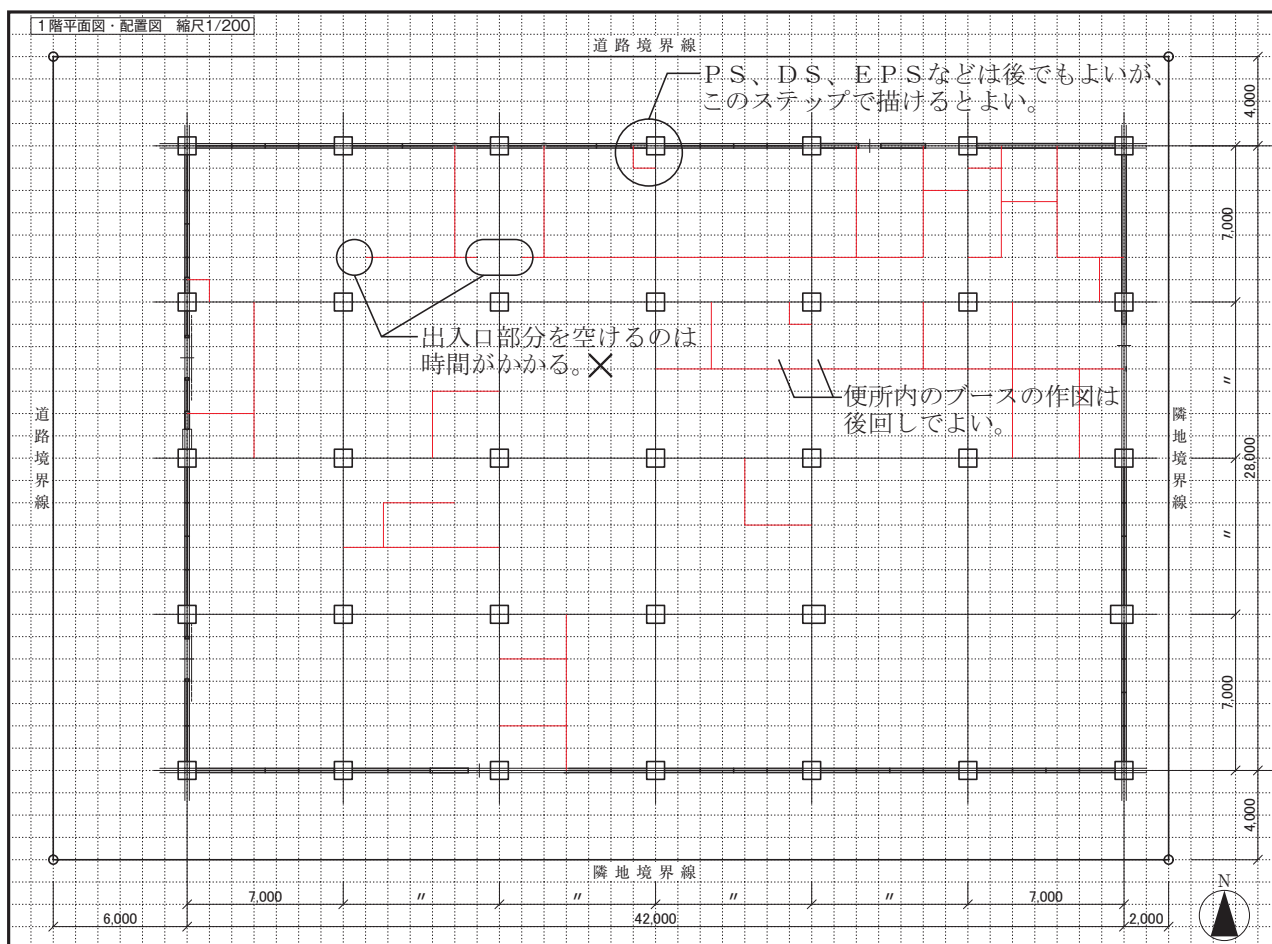
●内壁の下書き（仮線）

→内壁の中心線を単線で引く（フリーハンドでよい）。

目標タイム	3分
ここまで	25分

ここがポイント！

- ・ 出入口部分は無視して線を引く。
- ・ 自分のエスキスをよく確認し、室の大きさを間違えないように注意する。



【ステップ7 平面図】

●内壁の出入口位置を図示（中線、太線）

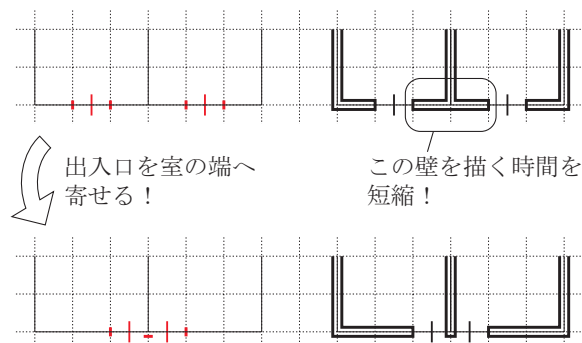
→出入口のセンターライン（中線）と両脇（壁の止め位置）（太線）を図示する。

（フリーハンドでよい）

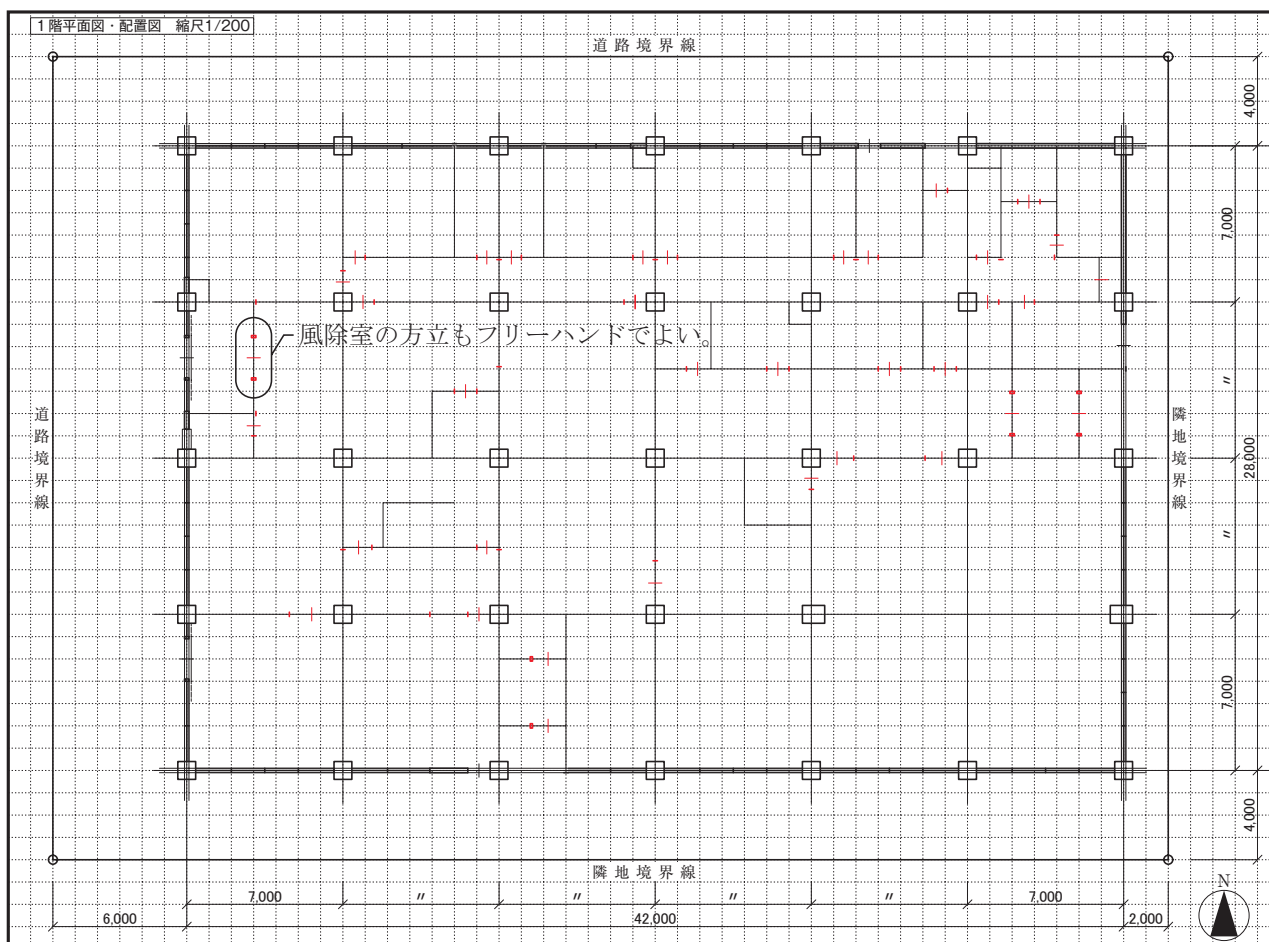
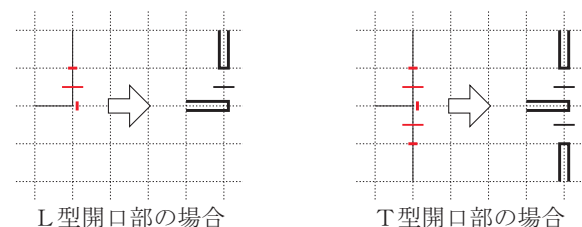
目標タイム	4分
ここまで	29分

ここがポイント！

- ・出入口の位置は、できるだけ端に寄せて計画すると作図時間の短縮になる。



- ・出入口の両脇（壁の止め位置）の図示例



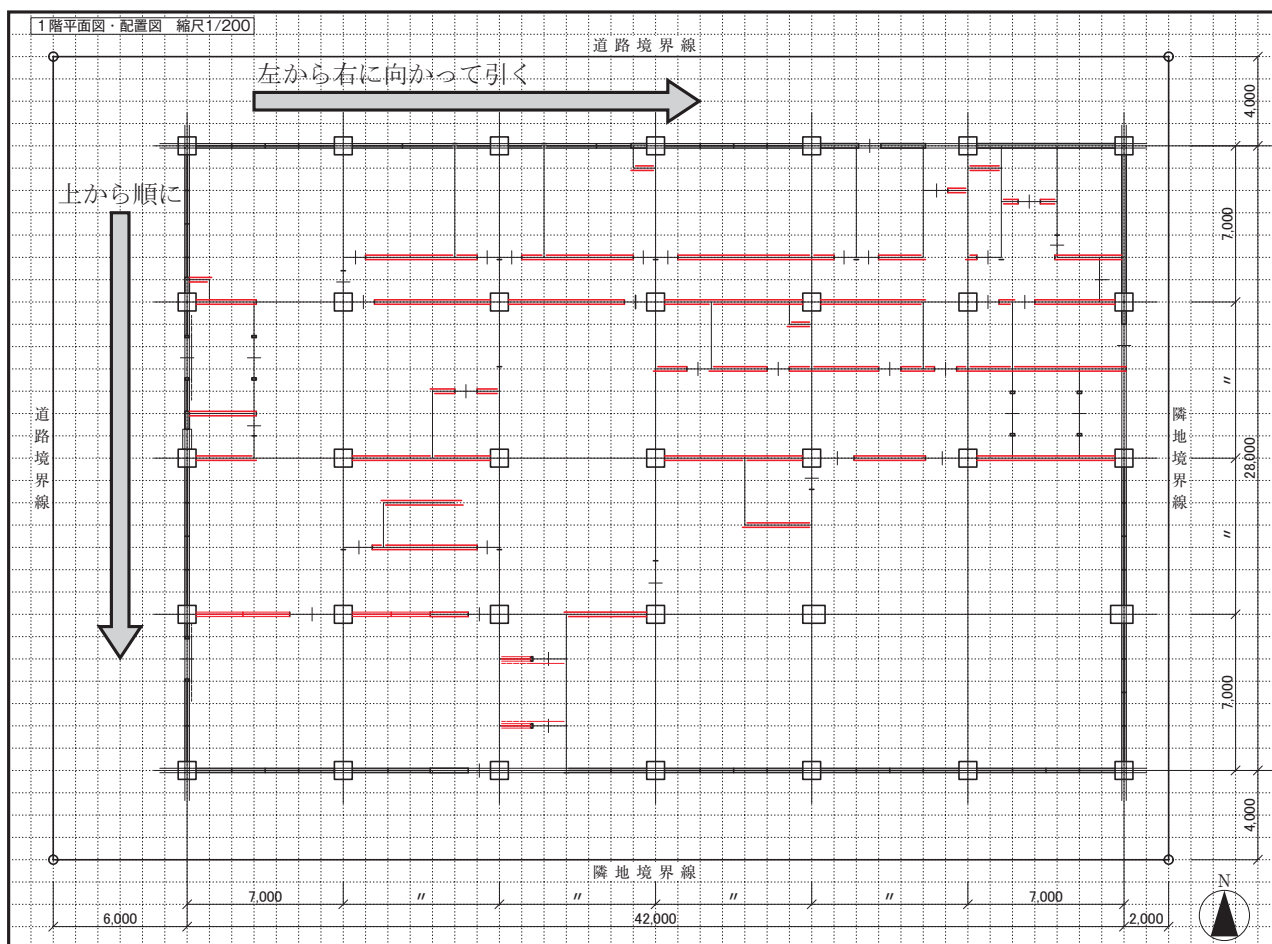
【ステップ8 平面図】

●内壁の仕上げ：横方向（太線）

→横方向の壁のみ、上から順に、左から右へ向かって平行定規で引く。

ここがポイント！

- ・横方向の線、縦方向の線をそれぞれまとめて引く。
- ・内壁は壁厚1.2mm程度で、目測で引けるように訓練する。
- ・外壁は壁厚を仮線で下書きしたが、内壁では下書きを省略して引けると時短になる。



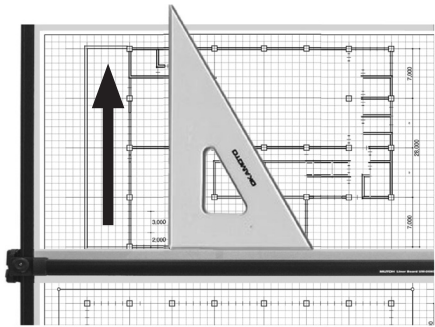
【ステップ9 平面図】

●内壁の仕上げ：縦方向（太線）

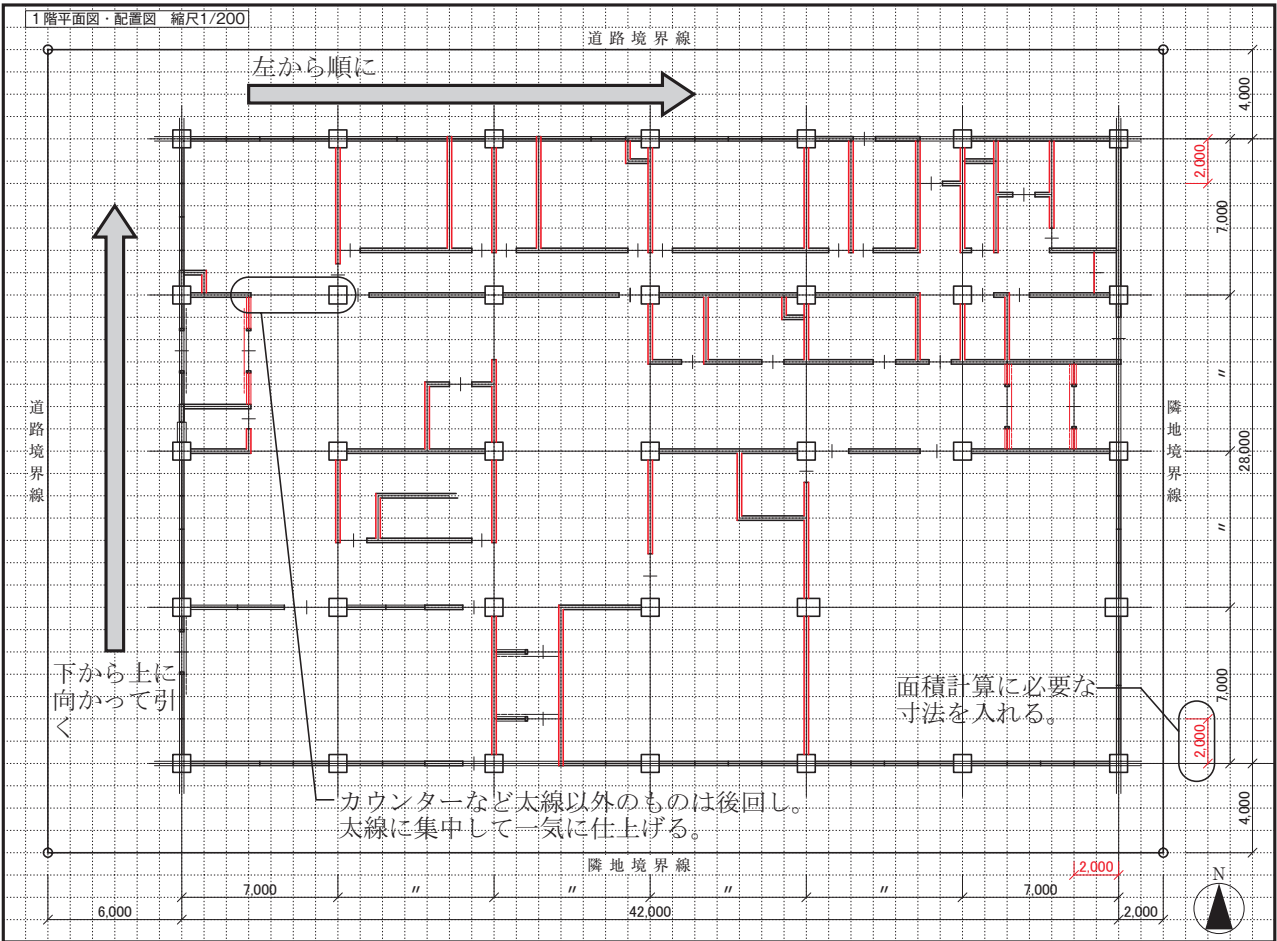
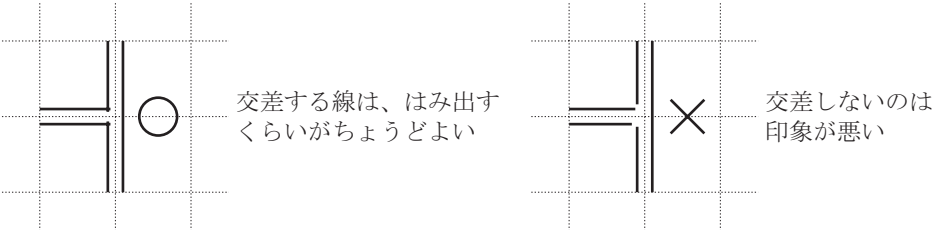
→縦方向の壁のみ、まとめて左から順に、下から上へ向かって三角定規で引く。

ここがポイント！

・縦方向の線は、三角定規の下端を平行定規に当て、下から上に向かって引く。



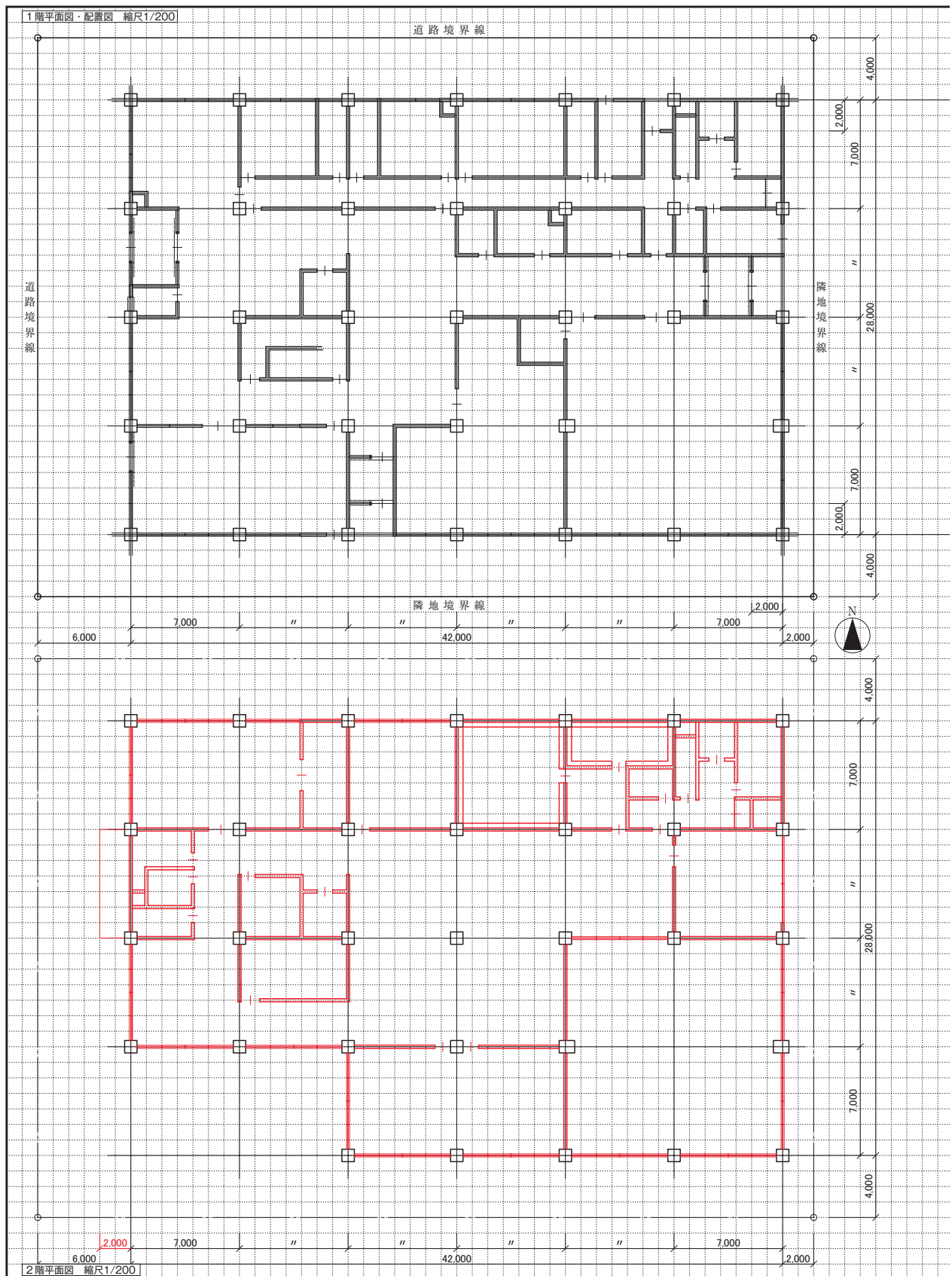
・線の交差

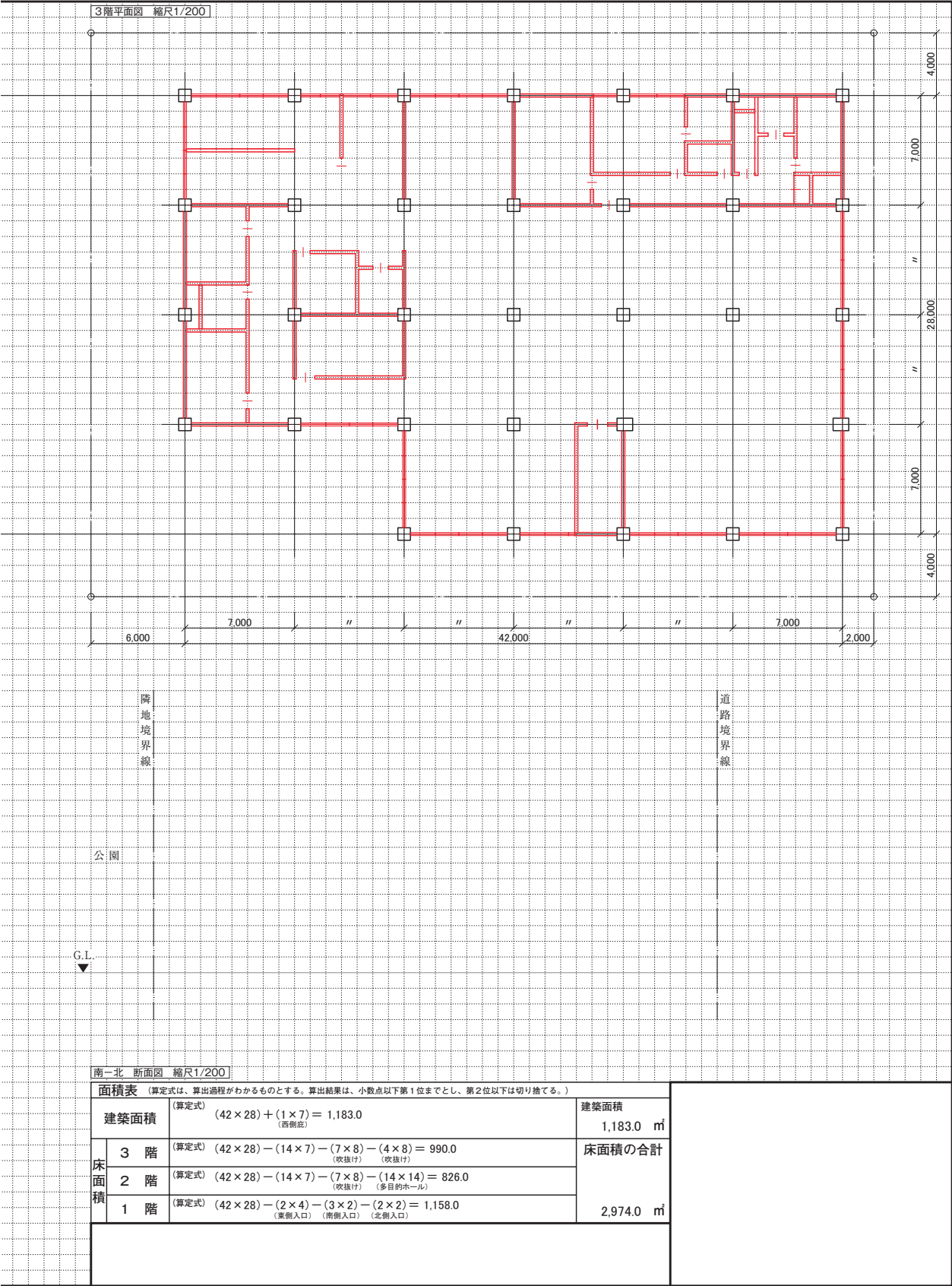


【ステップ10 平面図】

●2、3階平面図も同様に、ステップ4～9の手順で作図

目標タイム	2階：20分 3階：20分
ここまで	75分





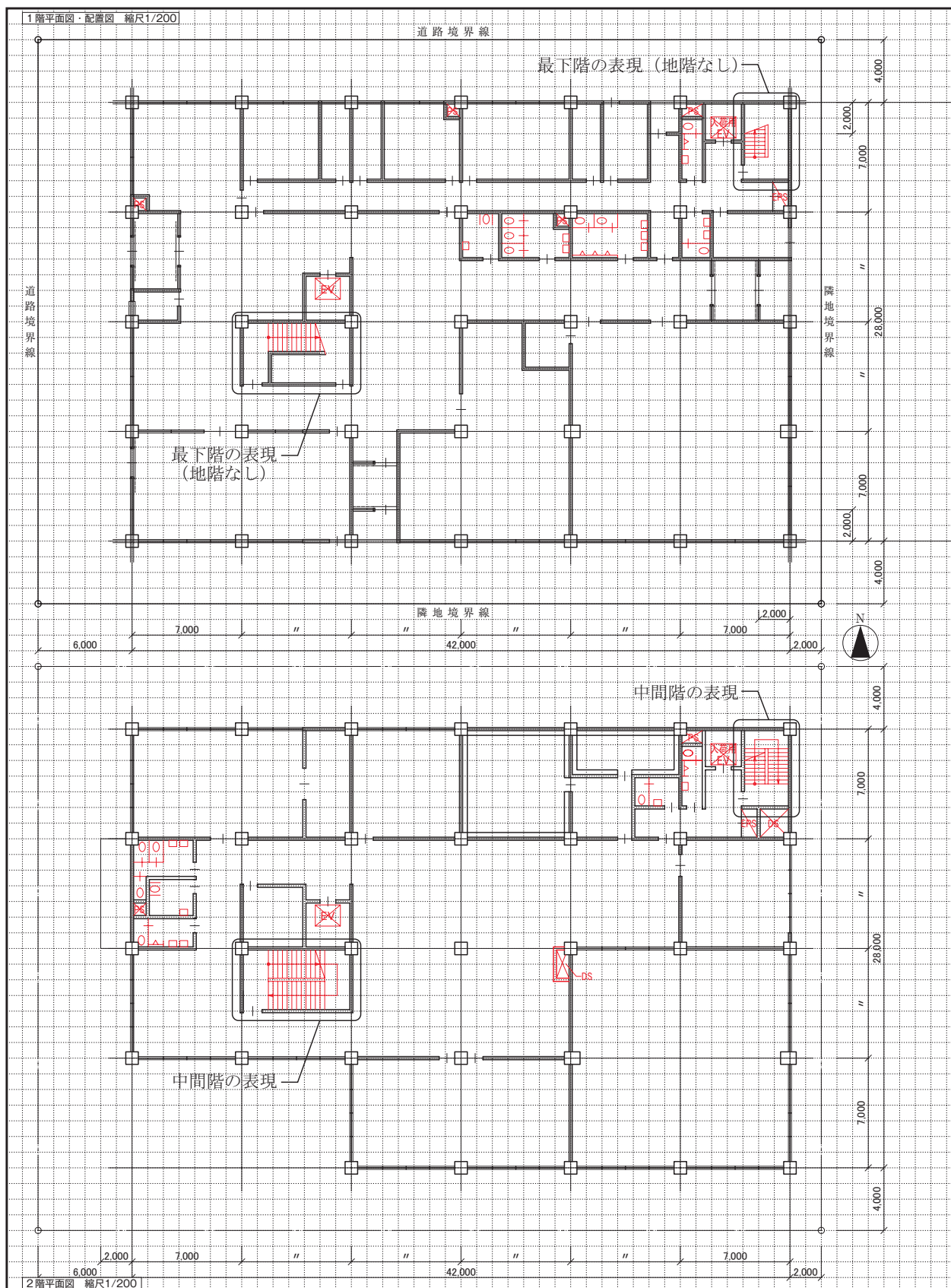
【ステップ11 平面図】

①階段・EV・便所の図示（中線）

→ 3面、同時に図示する。

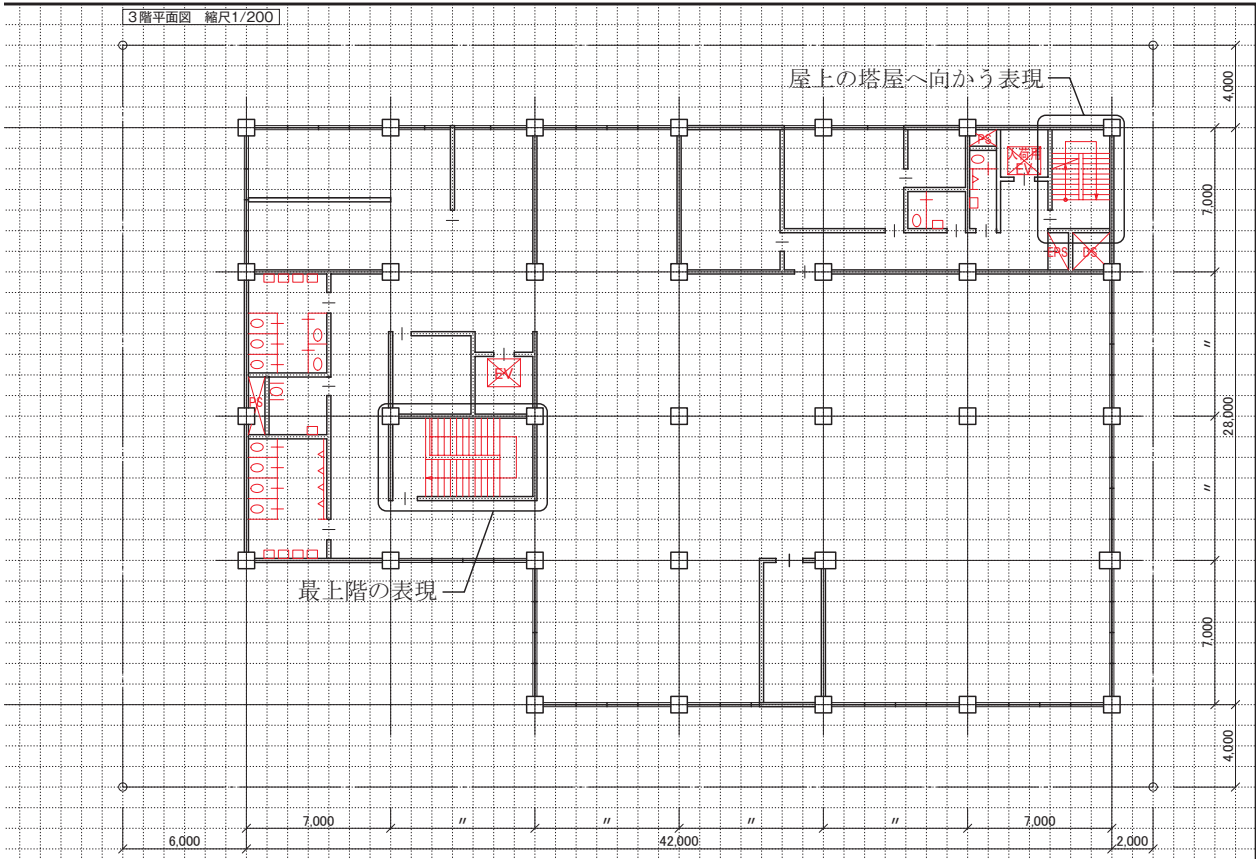
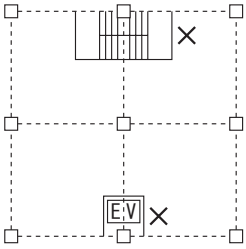
②PS・DS・EPSなどの図示（中線、太線）

目標タイム	10分
ここまで	85分

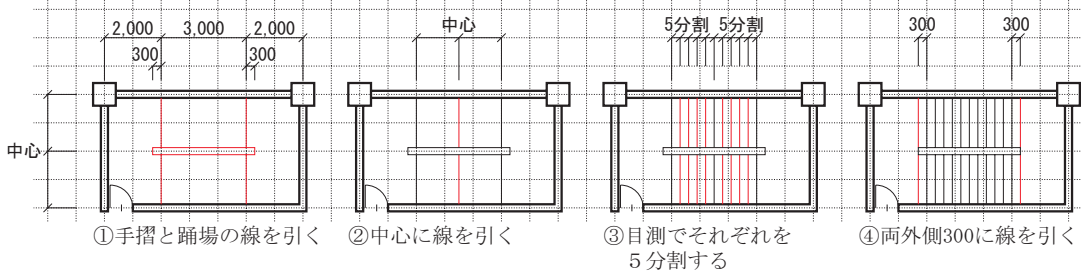


ここがポイント！

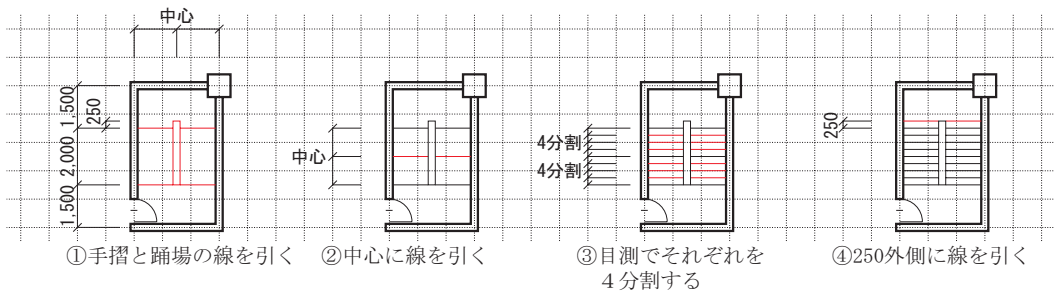
- ・ 階段の段数は正確に！ 適当に描かない。作図はフリーハンドでもよい。
→ 最下階、中間階、最上階の表現の違いにも注意する。
- ・ 階段・EVは、グリッドをまたがないように十分注意する。
- ・ EVシャフト、かごのサイズは、P.88・89参照。
- ・ PS、DS、EPSなどの注意点は、P.72・73・82参照。



補 足 ・ 利用者用階段の作図手順例

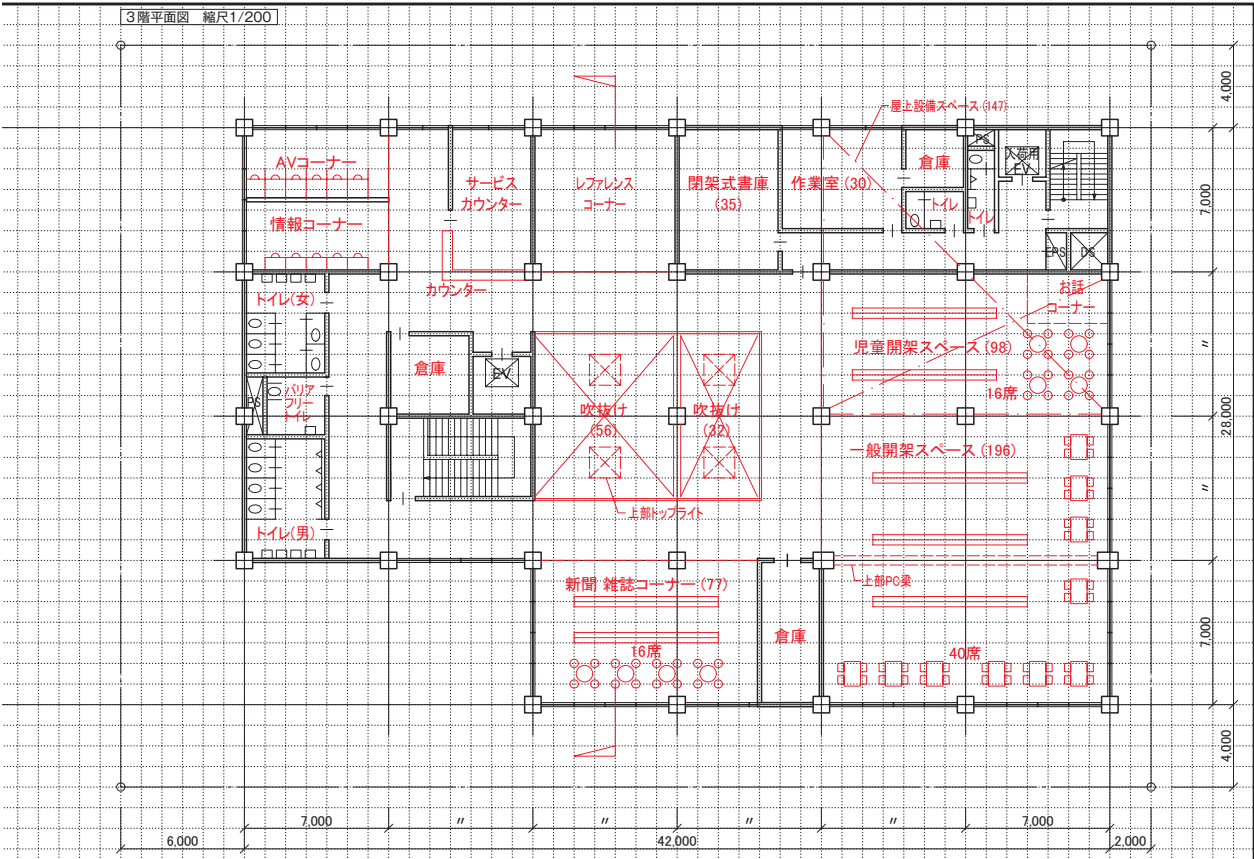


・ 管理用階段の作図手順例

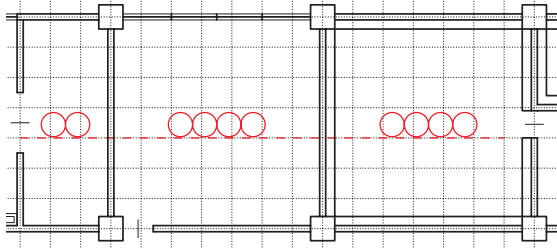


ここがポイント！

- ・ 室名は、概ね室の中央に記入する。文字は什器などとできるだけ重ならないほうが綺麗に見える。
- ・ 什器は、課題文の要求にあるものを優先して作図する。方眼を利用し、正しいスケールで作図する。作図はフリーハンドでもよい。
- ・ 断面図の切断線は、切断位置・切断方向は必ず課題文の指定に従い、3面に図示することを忘れない。



- 補 足** ・ 室名は方眼に文字の下を揃え、大きさ、高さ（約4mm）を揃えて、丁寧に書く。
- ・ できるだけ隣の室とも揃えると綺麗に見える。



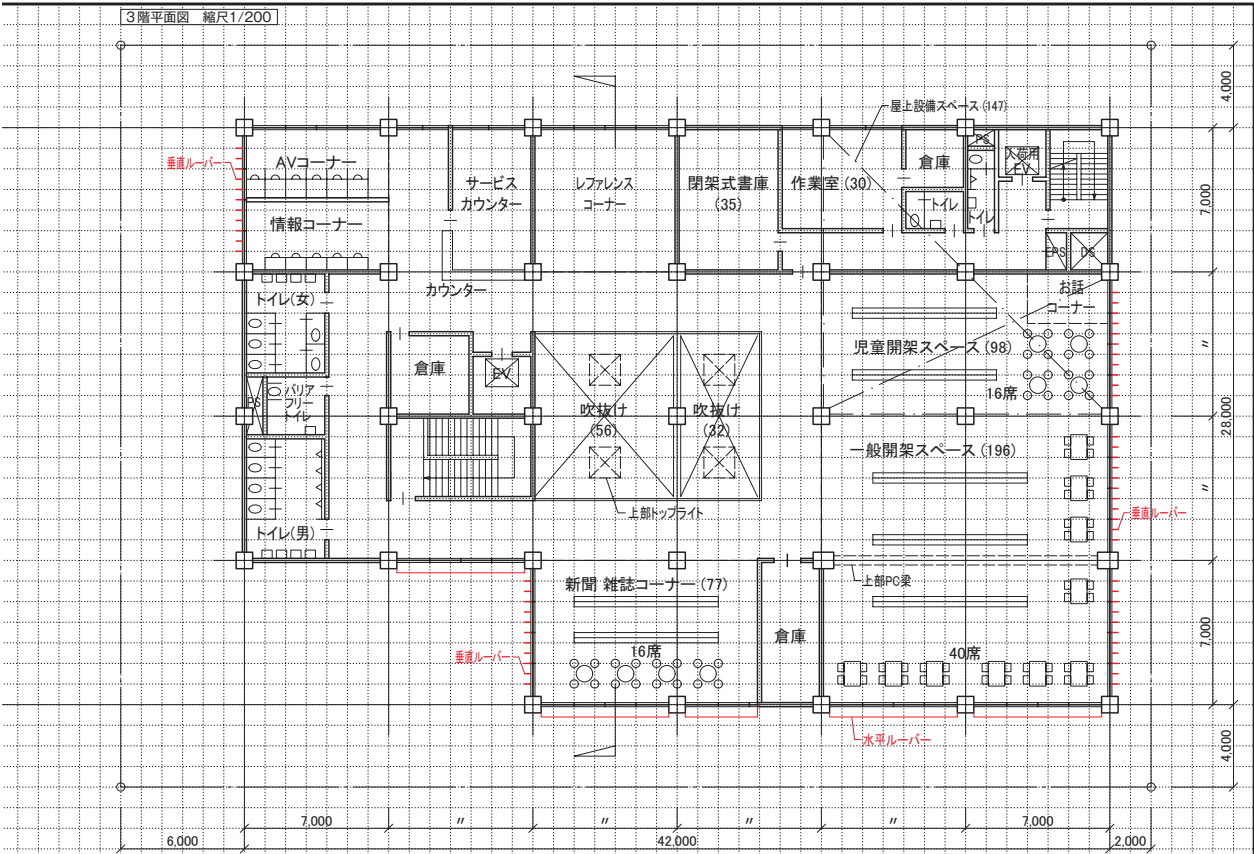
南-北 断面図 縮尺1/200

面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)

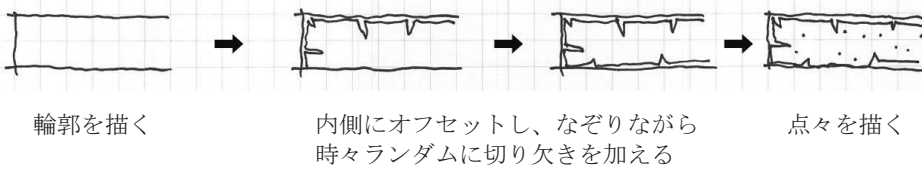
床面積	建築面積	(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側底)	建築面積 1,183.0 m ²
	3 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け) (吹抜け)	床面積の合計
	2 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)	
	1 階	(算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (東側入口) (南側入口) (北側入口)	
			2,974.0 m ²

ここがポイント！

- ・ここでは必要最低限の外構を作図し、細かいタイル目地などは後回しとする。



補足 ・ 植栽の描き方の一例（フリーハンドでよい）



G.L.

南→北 断面図 縮尺1/200

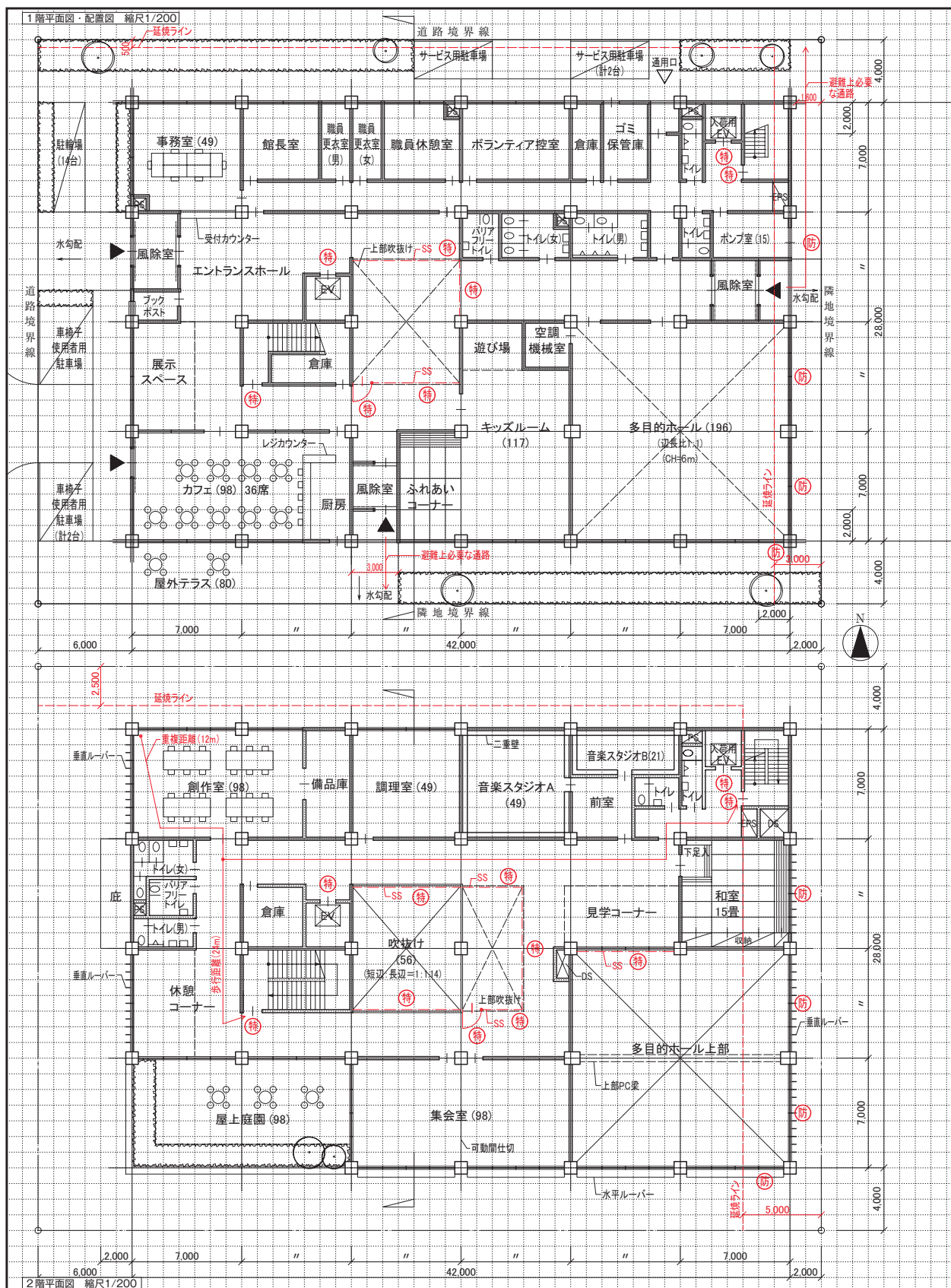
面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		
建築面積	(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側底)	建築面積 1,183.0 m ²
3 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け) (吹抜け)	床面積の合計
2 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)	
1 階	(算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (東側入口) (南側入口) (北側入口)	
		2,974.0 m ²

【ステップ14 平面図】

●法規的な要求の記入（中線）

- 防火区画（面積区画、堅穴区画等）の記入（P.125～参照）
- 延焼ラインの記入（P.124参照）
- 歩行経路・歩行距離・重複区間の長さの記入（P.118～参照）
- 敷地内の避難上必要な通路の記入（P.123参照）

目標タイム	10分
ここまで	140分

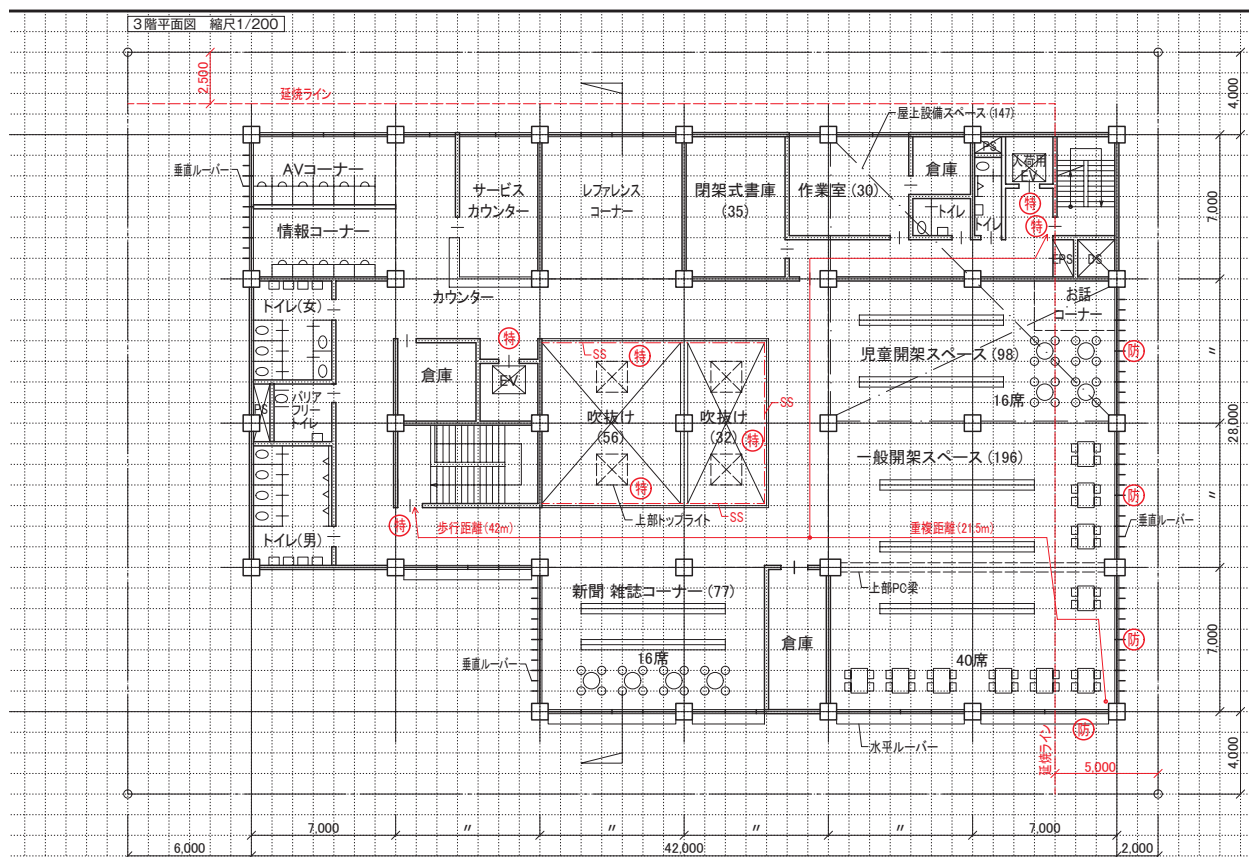


ここがポイント!

- ・法規的な要求の記入漏れは、**大減点となる**ので十分注意する。
→作図終了後、必ず自己チェックを行う習慣をつけよう。

法規のチェック

け	建蔽率
さ	採光
の	延べ面積
ほ	防火区画
た(ん)	高さ制限
え	延焼ライン
び	避難



補足

ここまでのステップで、要求に対して漏れのない（減点項目のない）必要最低限の平面図が完成する。

これ以上の細かい作図は最後とし、次に「断面図」の作図に移る。



..G.L.

南一北 断面図 縮尺1/200

面積表 (算定式は、算出過程がわかるものとする。算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)			
建築面積		(算定式) $(42 \times 28) + (1 \times 7) = 1,183.0$ (西側庇)	建築面積 1,183.0 m ²
床面積	3 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (4 \times 8) = 990.0$ (吹抜け) (吹抜け)	床面積の合計 2,974.0 m ²
	2 階	(算定式) $(42 \times 28) - (14 \times 7) - (7 \times 8) - (14 \times 14) = 826.0$ (吹抜け) (多目的ホール)	
	1 階	(算定式) $(42 \times 28) - (2 \times 4) - (3 \times 2) - (2 \times 2) = 1,158.0$ (客用入り) (客用入り) (客用入り)	

【ステップ15 断面図】

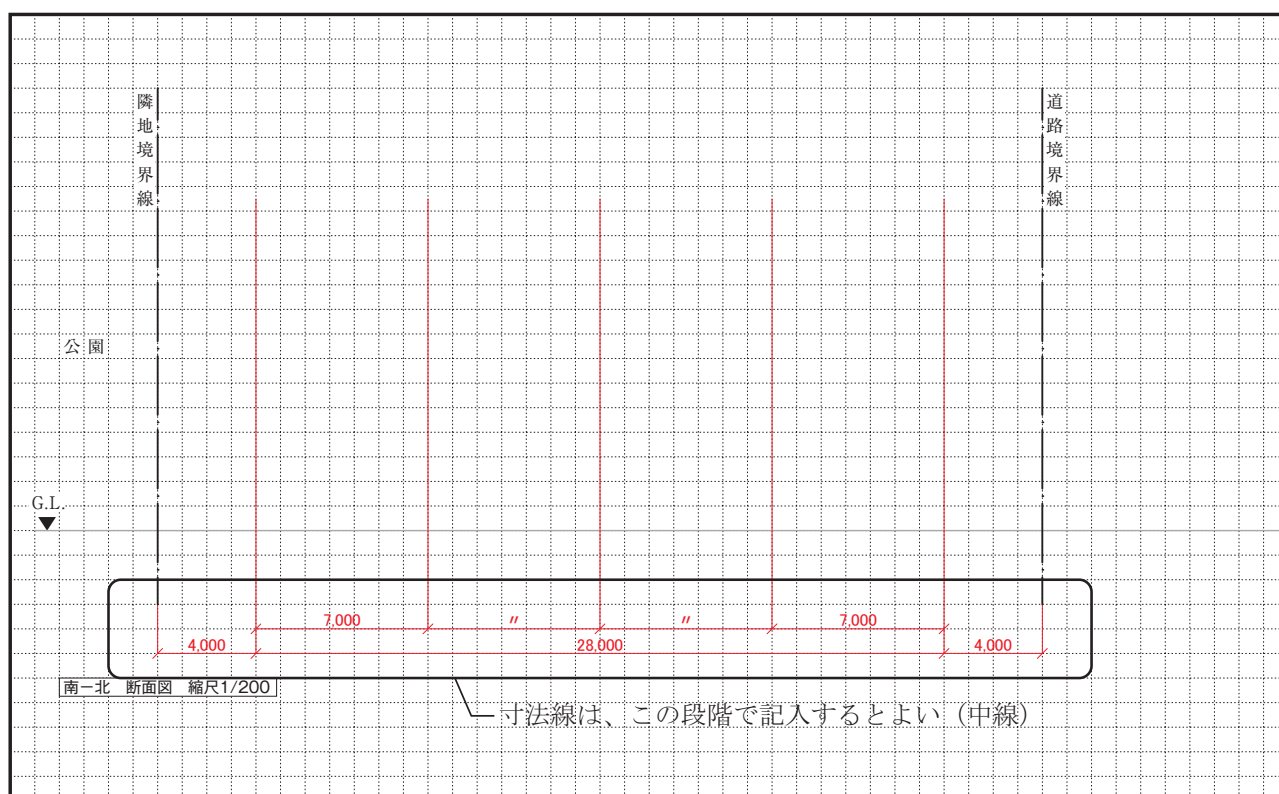
①境界線（中線）、通り心（仮線）の図示

②横寸法の記入（中線）

目標タイム	3分
ここまで	143分

ここがポイント！

- ・断面図の作図は**30分以内**を目標とするが、重点的にトレーニングを繰り返すことで、さらに時間短縮が見込める図種である。
- ・建築物の長辺方向で切断する場合は、平面図の外形線及び通り心をそのまま下ろしてくればよい。



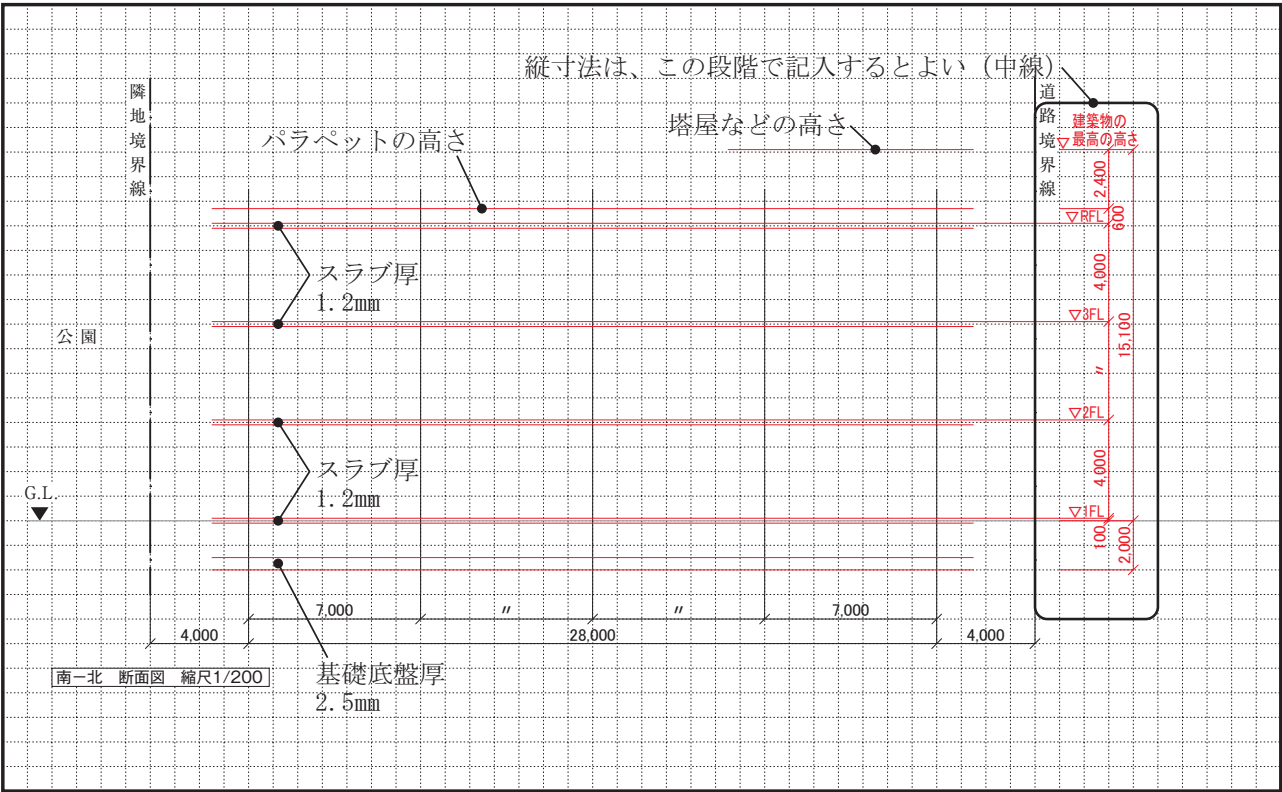
【ステップ16 断面図】

目標タイム	5分
断面図開始から	8分
ここまで	148分

- ①床高、基礎底面の下書き（仮線）
→ G Lを基準に、各階の床高、基礎底面、パラペットの立上りなどを引く。
- ②縦寸法の記入（中線）
- ③スラブ厚、基礎底盤の下書き（仮線）

ここがポイント！

- ・床高などの高さ方向の寸法は、答案用紙に予め印刷された **G L** を基準とする。
- ・作図上、**スラブ厚は1.2mm**、**基礎底盤は2.5mm程度**で下書きする。



【ステップ17 断面図】

①梁幅の下書き（仮線）

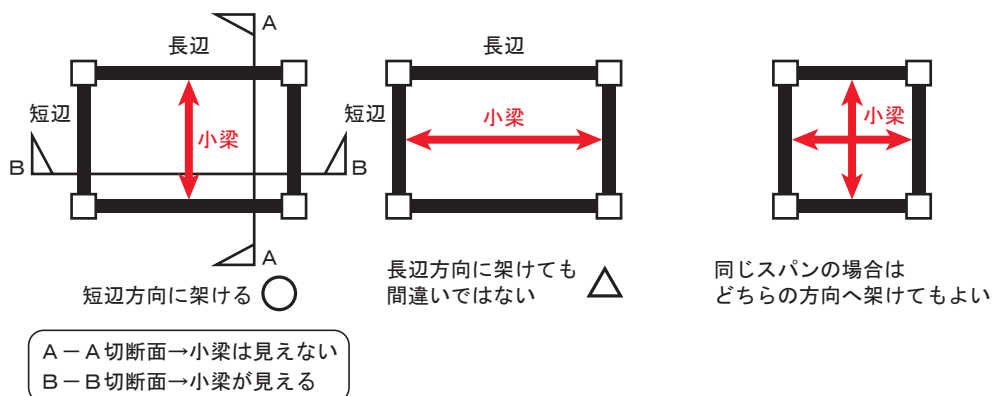
②梁せい（梁の下端）の下書き（仮線）

→梁せいは、スラブ上端から所定の寸法をとる。

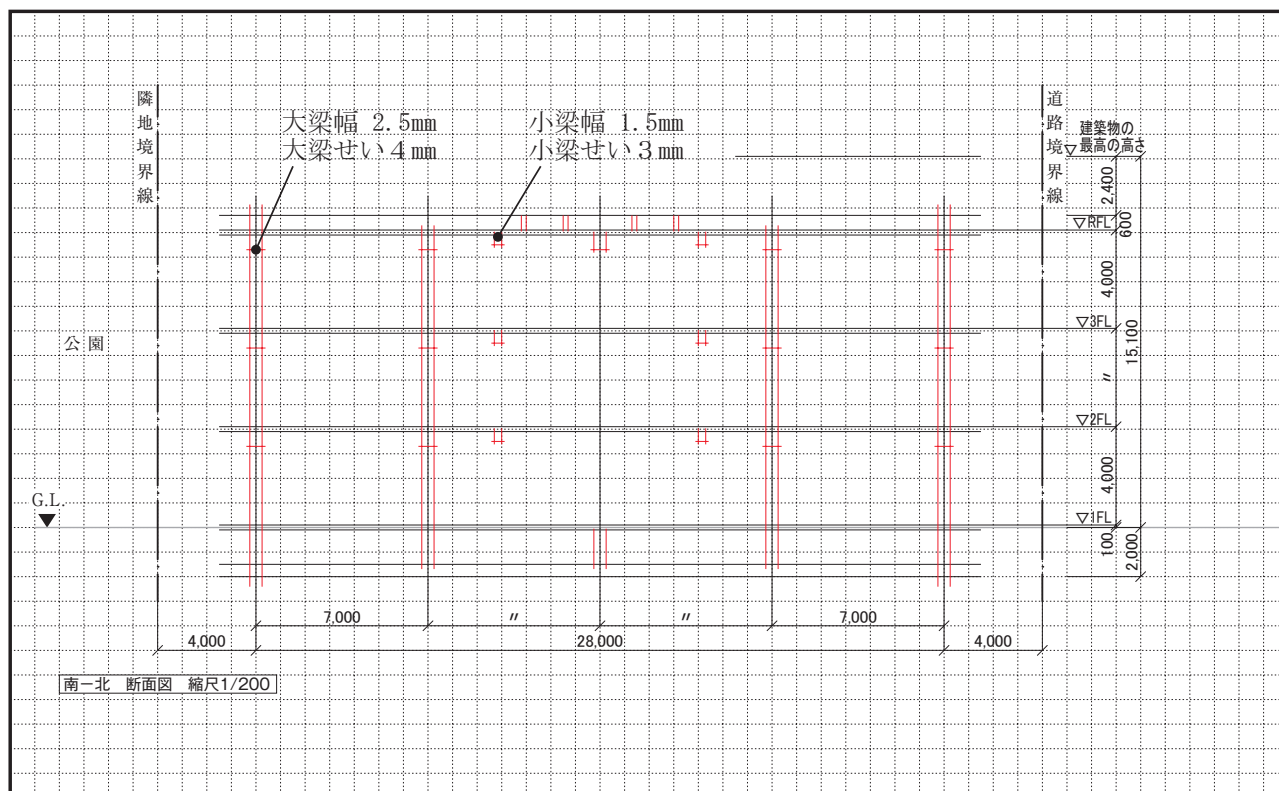
目標タイム	4分
断面図開始から	12分
ここまで	152分

ここがポイント！

- ・作図上、大梁幅は2.5mm、大梁せいは4mm、小梁幅は1.5mm、小梁せいは3mm程度で下書きする。
- ・小梁は、原則、グリッドの短辺方向に架けると考えて計画する。



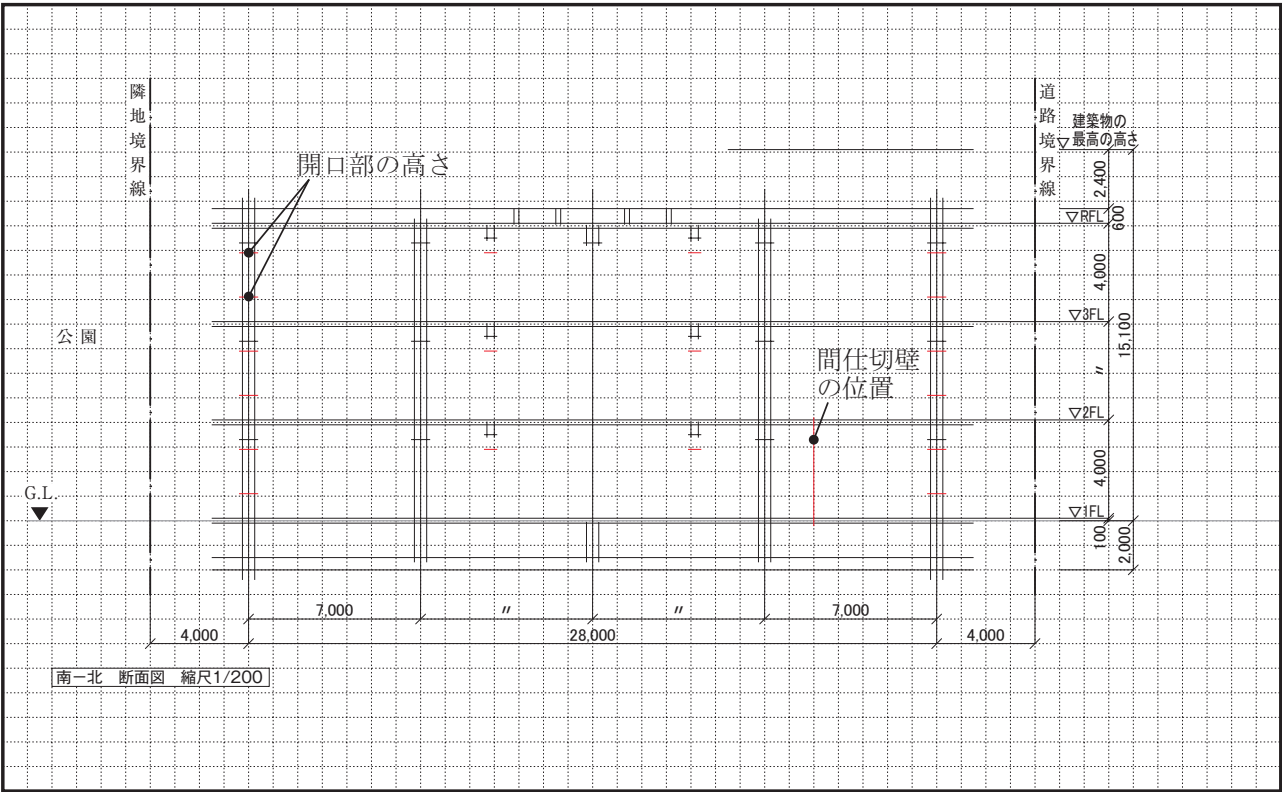
- ・慣れてきたら梁幅、梁せいの下書きを省略し、**ステップ19**で一気に描き上げられるようにしましょう！



【ステップ18 断面図】

- ①開口部などの高さの下書き（仮線）
- ②間仕切壁の位置の下書き（仮線）

目標タイム	3分
断面図開始から	15分
ここまで	155分



【ステップ19 断面図】

●断面の仕上げ（太線）

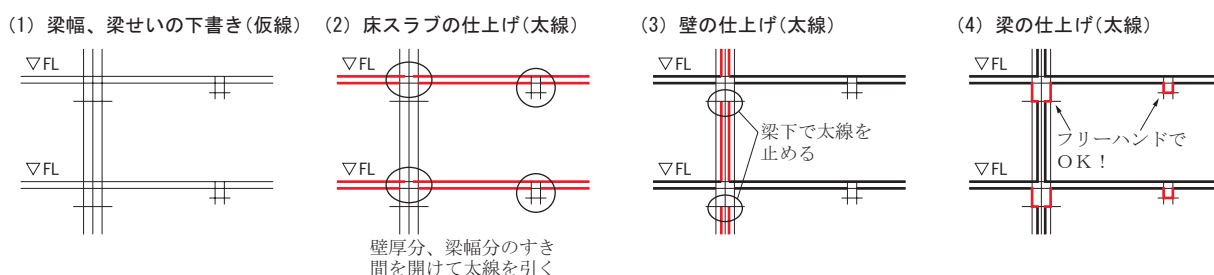
→これまで下書きした切断面を太線でなぞる。

→横方向の線、縦方向の線をそれぞれまとめてなぞると効率的である。

目標タイム	10分
断面図開始から	25分
ここまで	165分

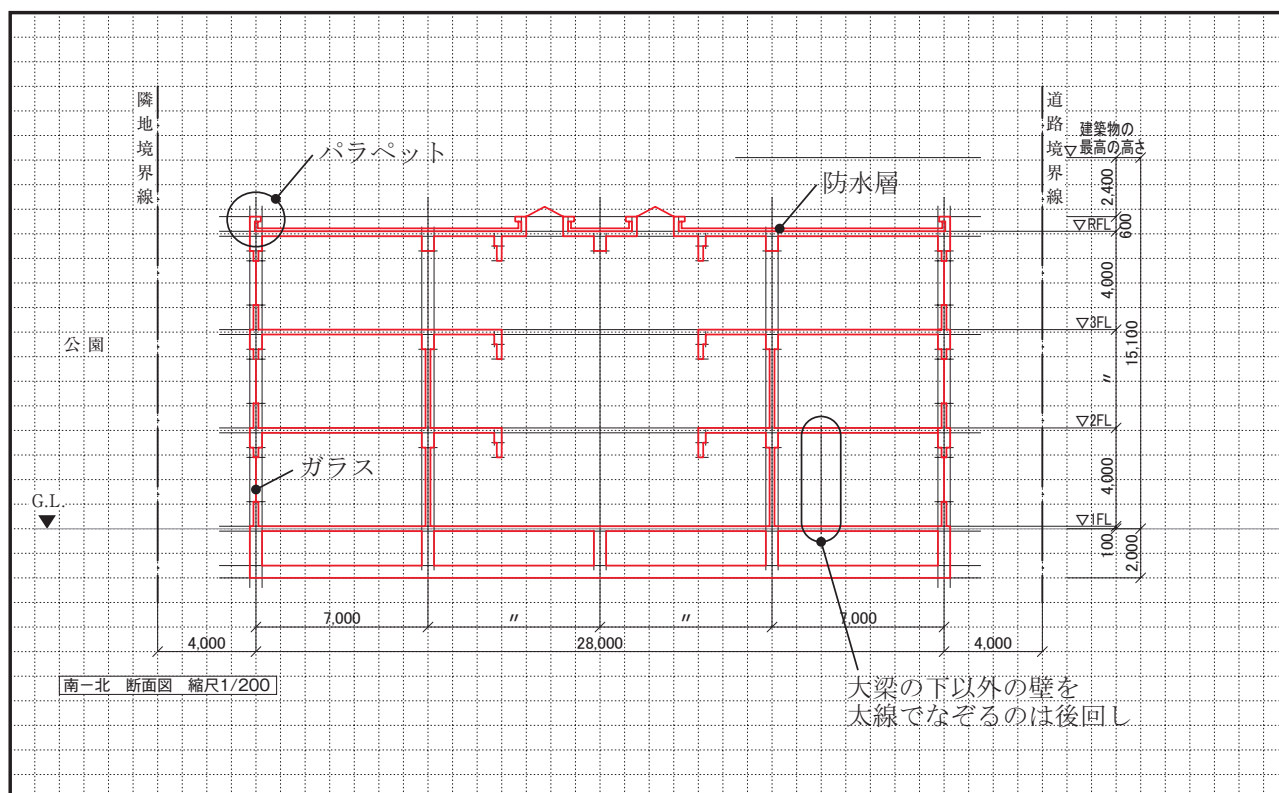
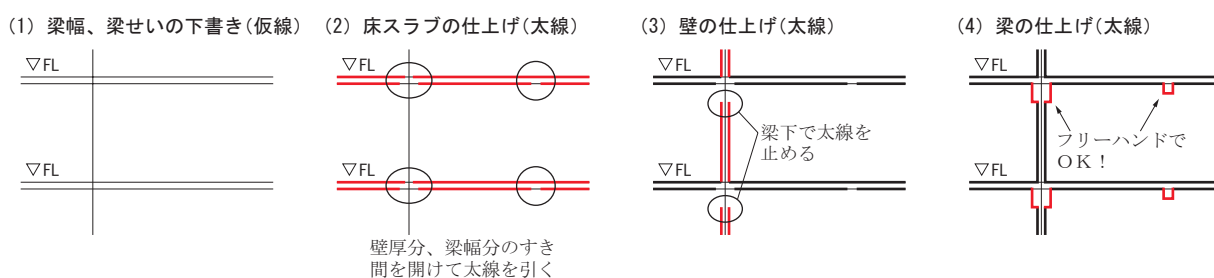
ここがポイント！

・太線の効率的ななぞり方の例



・時短テクニック（ステップ17の梁の下書きを省略）

→梁幅・梁せいを覚え、下書きなしで作図できると早い！



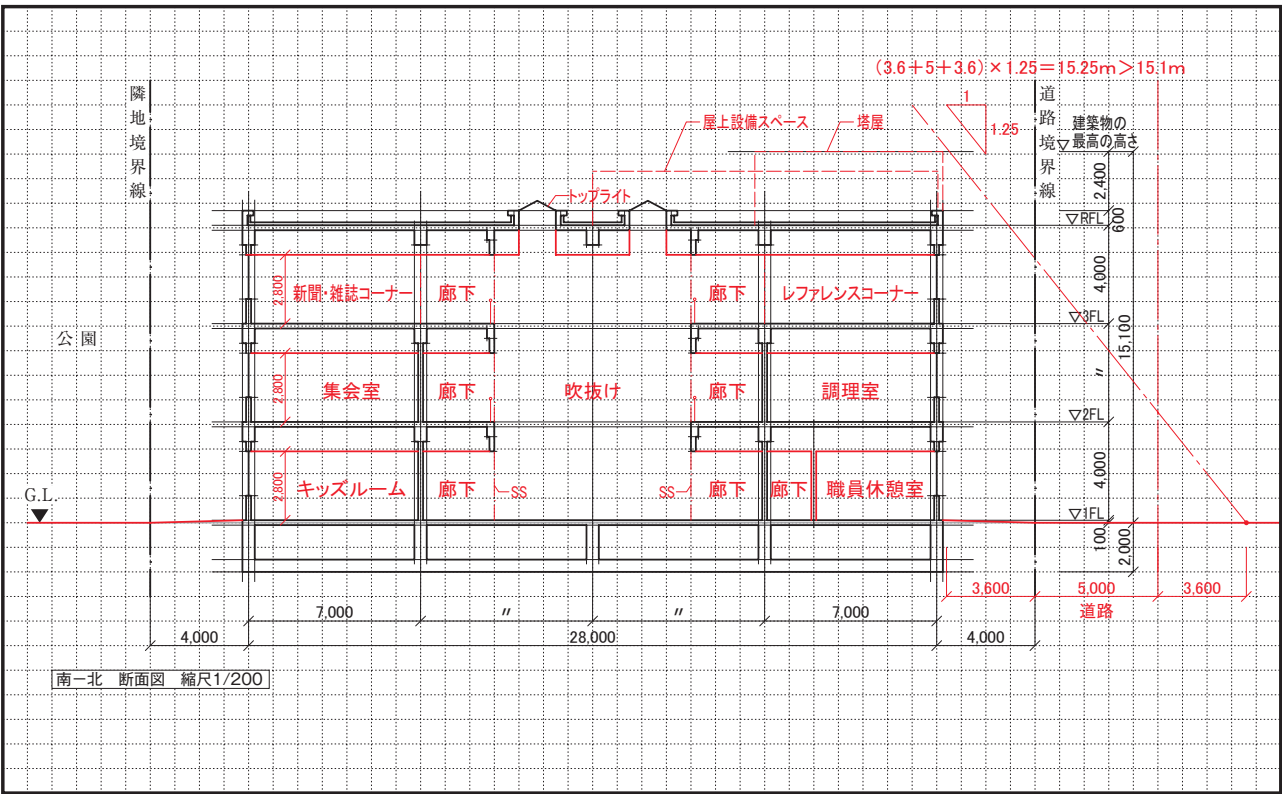
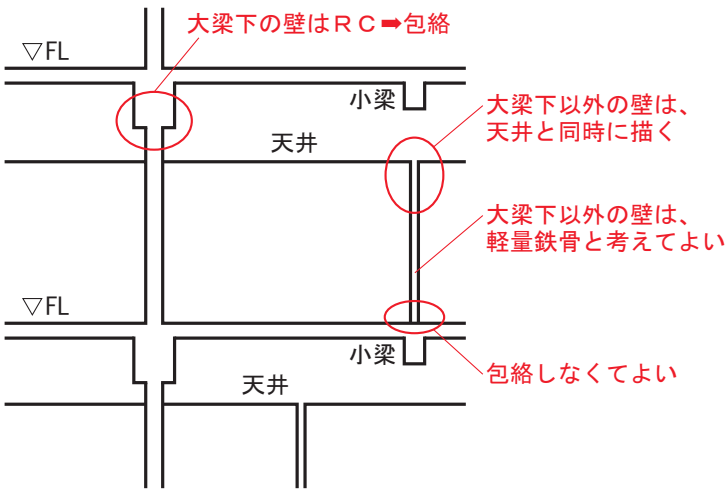
【ステップ20 断面図】

- ①天井及び間仕切壁の図示（太線）
- ②天井高及び室名の記入（中線）
→天井高の寸法線、室名などを記入する。
- ③屋上設備スペースの設備機器、塔屋などの図示（中線）
→課題文の要求に従い、図示する。
- ④道路高さ制限などの図示（中線）
→課題文の要求に従い、図示する。

目標タイム	5分
断面図開始から	30分
ここまで	170分

ここがポイント！

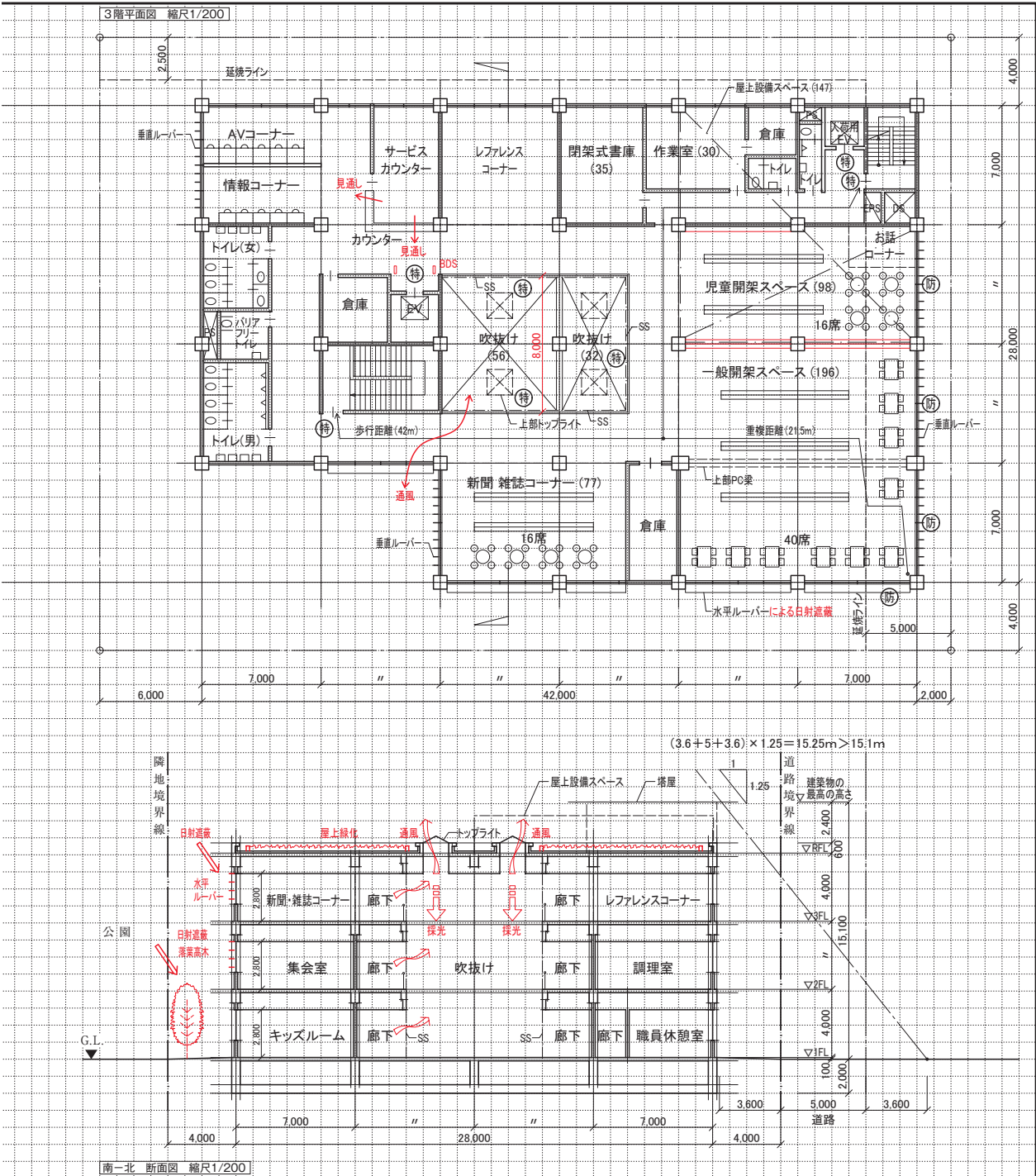
- ・天井、壁の取り合い部の作図ポイント



ここがポイント！

- ・引出し線は、直線長さや斜線の角度を揃えると綺麗に見える。
- ・採光や通風を表現する矢印は、自分でルールを決めて内容ごとに同じ形式に揃えるとよい。

(例) 補足説明
補足説明
補足説明



補足

- ・タイルやテラスの目地は、時短のために全面描かなくてもよい。

